

飯田市スポーツ推進計画 概要版

平成 29 年 3 月 23 日
飯田市議会全員協議会
資料No.10-1

第 1 章 スポーツ推進計画の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

子どもたちの体力の低下、働き盛り世代における運動不足によるストレスの増大や心身の健康問題など、スポーツに関連する課題は増大しています。また、地域コミュニティを活性化し、地域住民の一体感や活力を醸成するうえでも、スポーツの役割が大きくなってきています。

こうしたことを背景として、飯田市では、スポーツ基本法に基づき、今後の本市のスポーツ行政を総合的に推進するため飯田市スポーツ推進計画を策定します。

2 計画の性格（位置づけ）

「いいだ未来デザイン 2028（飯田市次期総合計画）」、「第 2 次飯田市教育振興基本計画」に対応するスポーツ分野の個別計画として位置づけ、今後のスポーツ推進のための基本方針・基本目標・施策の展開について明らかにします。

3 計画期間

平成 29 年度（2017 年度）を初年度とし、平成 32 年度（2020 年度）を目標年度とする 4 か年間を対象とします。なお、計画期間内であっても、新たに計画に盛り込むべき事項が生じた場合は、必要に応じ計画を見直します。

第 2 章 計画の基本方針

1 計画の基本理念

「スポーツを通じて人と地域が輝く社会(まち)飯田」

飯田市は豊かな自然・文化に恵まれ、公民館活動などの住民の主体的な取り組みにより多様なスポーツ活動が展開されています。

スポーツは、個人の心身の健康増進のみならず、地域コミュニティづくりにもつながります。また、市民の身近で高いレベルの競技が見られることや飯田市出身のアスリートが輩出されることは、市民のスポーツへの関心を高めるとともに、市民に夢と希望を与えることとなります。

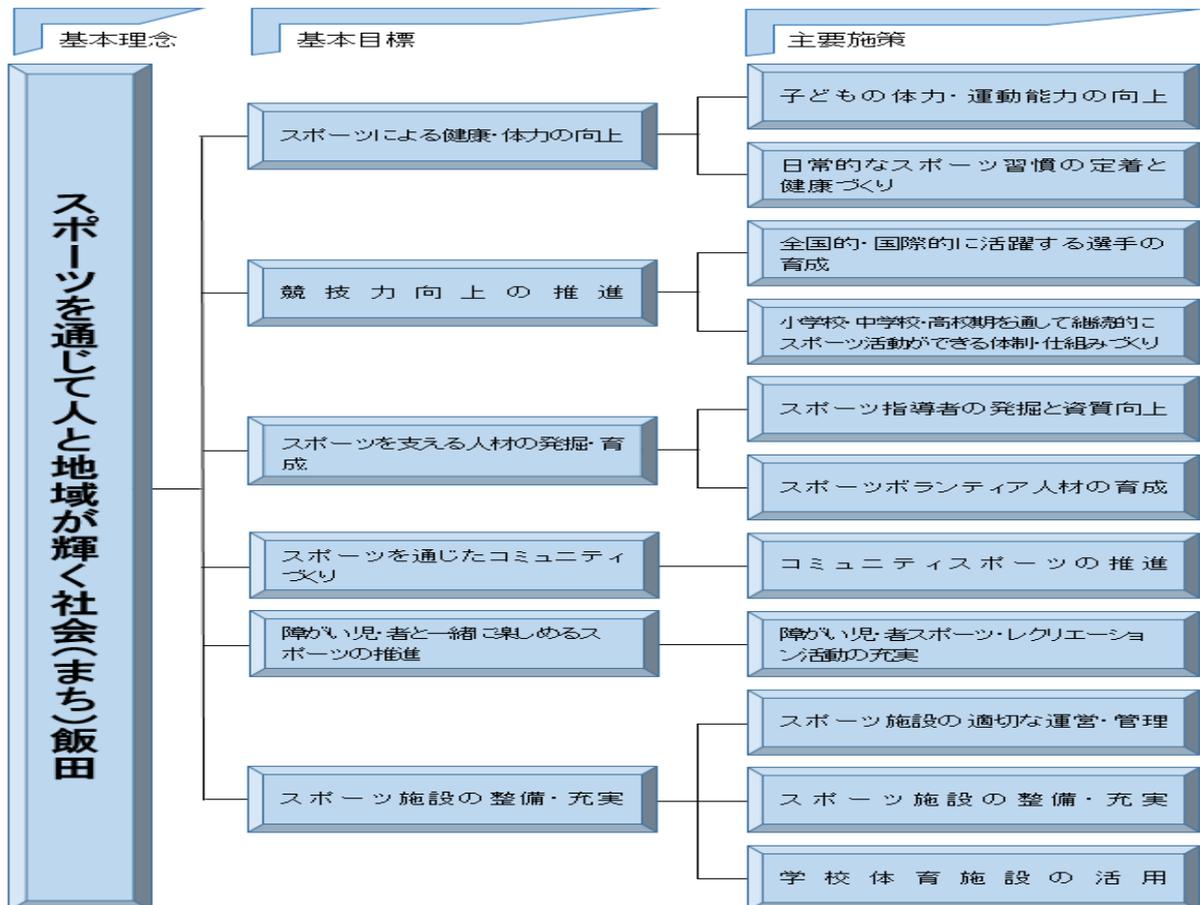
そこで、飯田市では、生涯スポーツの推進、コミュニティスポーツ^{※1}の推進、競技スポーツの振

興を通して「人と地域が輝く社会（まち）」をめざします。併せて、市、学校、（公財）飯田市体育協会、スポーツ推進委員、関係スポーツ団体及び市民などの多様な主体が互いに協働しながら、社会（まち）づくりを進めることを基本理念とします。

※1コミュニティスポーツ：市町村などの地域社会で、住民が自発的に行うスポーツ活動。肉体的、精神的向上だけでなく、地域社会の連帯を強めることを目的とする。

2 計画の構成

基本理念に基づき、以下の6つを基本目標に掲げ取り組みます。



3 達成目標

達成目標は、施策の達成度をできるだけわかりやすく示す指標や目標値を示します。施策の進捗により見直すことがあります。

【子どもの体力・運動能力】

指標名	現状（2016年度）	目標（2020年度）
運動能力総合評価のA・B評価（運動能力が高い）の割合 （調査対象である小学校5年と中学校2年の平均値）	40.6% （全国 43.7%、 長野県 43.0%）	全国値以上にする。

※「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査結果を基に目標値

【成人の日常的なスポーツ習慣】

指標名	現状（2015年度）	目標（2020年度）
成人の週1回以上スポーツに親しむ人の割合	38.8% （全国 40.4% 長野県 45.1%）	45%

※「体力・スポーツに関する世論調査」・「市民意識調査」の調査結果を基に目標値を設定。

第3章 計画の基本目標と施策の展開

1 スポーツによる健康・体力の向上

【4年後の目指す姿】

- ・運動好きの子どもが増えるとともに、子どもたちのスポーツに対する多様なニーズに対応できる環境・指導者が整い、子どもたちが楽しくスポーツに親しんでいます。
- ・ウォーキングやニュースポーツが幅広い年齢層に普及し、市民の日常生活における運動習慣が定着しています。

【施策の展開】

- ・子供の体力・運動能力の向上に向けて、歩いて自然や社会に触れ、豊かな心・生きる力を育てる「歩育」、神経系の発達が著しい年代を対象にした運動学習能力を高めるプログラムを実践し、運動好きの子供を増やします。
- ・ウォーキングのシンボルイベントである「飯田やまびこマーチ」や、郷土の山「風越山」を舞台にマラソン・ウォーキングを楽しむ「風越登山マラソン大会」、定期的を開催するウォーキング教室など、スポーツ習慣のきっかけとなる事業を充実させ、市民の日常生活におけるスポーツ習慣を定着させます。

2 競技力向上の推進

【4年後の目指す姿】

- ・全国大会やオリンピック・パラリンピックなどの国際舞台で活躍する地元出身選手が増加しています。

【施策の展開】

- ・（公財）飯田市体育協会や民間スポーツクラブと連携し、地域でトップアスリートを育てることができる体制を目指します。
- ・地元出身選手の活躍は、市民に対し元気と活力を与え、地域の一体感づくりに寄与することから、その活躍をたたえ、広く市民に周知します。
- ・少子化による部活動種目の減少に対応し、小学校・中学校・高校期を通して継続的にスポーツ活動ができる体制や仕組みを整備するため、各中学校ごとのスポーツ運営委員会におけるあり方の検討や、民間スポーツクラブ等との連携を図っていきます。

3 スポーツを支える人材の発掘・育成

【4年後の目指す姿】

- ・各競技スポーツの指導者が、指導者同士の横の連携を密にし、切磋琢磨する組織体制ができています。
- ・市民の多様なスポーツニーズに対応できる指導者体制が整っています。
- ・スポーツボランティア活動など、スポーツを「支える」文化が育っています。

【施策の展開】

- ・（公財）飯田市体育協会と連携し、指導者の知識・指導技術の向上を図るための指導者講習会の充実と、公認スポーツ指導者の資格取得を促します。
- ・スポーツ推進委員の指導技術の向上を図り、市民ニーズの高いウォーキングやニュースポーツの指導環境を充実させます。
- ・地域の中学生や高校生にスポーツイベントの運営等に積極的に関わってもらうことで、スポーツを「支える」土壌づくりを進めます。

4 スポーツを通じたコミュニティづくり

【4年後の目指す姿】

- ・コミュニティスポーツが市民に浸透し、一体感・活力のある飯田市が実現しています。

【施策の展開】

- ・スポーツ推進委員と公民館が核となって、地域住民の交流と一体感・活力の醸成のため、コミュニティスポーツの推進やサークル育成等の支援、文化活動との連携を図ります。
- ・ニュースポーツフェスティバルなどスポーツ事業を充実させ、スポーツを通じてより多くの市民が交流できるような機会を増やします。

5 障がい児・者と一緒楽しめるスポーツの推進

【4年後の目指す姿】

- ・障がい児・者がスポーツイベント等により多く参加し、一緒に楽しむ土壌が整っています。

【施策の展開】

- ・飯田やまびこマーチのコース設定など、障がい児・者と一緒楽しめるイベント企画、サポート体制を充実させます。
- ・障がい児・者スポーツ選手・チームと一緒に試合や交流を行うための情報提供やサポートを充実させます。

6 スポーツ施設の整備・充実

【4年後の目指す姿】

- ・誰もが安全・快適に利用できるスポーツ施設の整備やサービスの向上により、利用者が増加しています。

【施策の展開】

- ・今後は計画的な改修工事を実施することにより、スポーツ施設の長寿命化を推進します。
- ・施設の利用状況を考慮し、統廃合や複合化を含めた今後の施設のあり方については、飯田市公共施設マネジメント基本方針に則って検討を進めます。
- ・プロスポーツや広域的な規模の試合・大会に対応できるよう、広域的なスポーツ施設について南信州広域連合と連携して検討していきます。

第4章 施策の推進体制

1 施策推進体制と役割

計画の推進に当たっては、市民や地域、スポーツ団体、学校、行政などが、それぞれの役割を發揮し、協働しながら事業を展開していきます。

2 計画の検証・評価

飯田市スポーツ推進計画は、必要に応じ達成目標、主要施策及び事務事業を点検・評価し、改善・見直しを行います。

平成 29 年 3 月 23 日

飯田市議会全員協議会 資料No.10-2

飯田市スポーツ推進計画

～スポーツを通じて人と地域が

輝く社会（まち）飯田～

平成 29 年 4 月 1 日

飯田市教育委員会

目 次

第1章	スポーツ推進計画の基本的な考え方	1
1	計画策定の趣旨	1
2	計画の性格	1
3	計画期間	1
第2章	計画の基本方針	2
1	計画の基本理念	2
2	計画の構成	3
3	達成目標	4
	(1) 子どもの体力・運動能力	
	(2) 成人の日常的なスポーツ習慣	
第3章	計画の基本目標と施策の展開	5
基本目標 1	スポーツによる健康・体力の向上	
	1 子どもの体力・運動能力の向上	5
	2 日常的なスポーツ習慣の推進と健康づくり	11
基本目標 2	競技力向上の推進	
	1 全国的・国際的に活躍する選手の育成	16
	2 小学校・中学校・高校を通して継続的にスポーツ活動ができる体制・仕組みづくり	17
基本目標 3	スポーツを支える人材の発掘・育成	
	1 スポーツ指導者の発掘と資質向上	18
	2 スポーツボランティア人材の育成	19
基本目標 4	スポーツを通じたコミュニティづくり	
	1 コミュニティスポーツの推進	20
基本目標 5	障がい児・者と一緒に楽しめるスポーツの推進	
	1 障がい児・者スポーツ・レクリエーション活動の充実	21
基本目標 6	スポーツ施設の整備・充実	
	1 スポーツ施設の適切な運営・管理	22
	2 スポーツ施設の整備・充実	23
	3 学校体育施設の活用	24
第4章	施策の推進体制	25
1	施策推進体制と役割	25
2	計画の検証・評価	27
<資料編>		
1	飯田市で管理する体育施設一覧	27
2	飯田市スポーツ推進審議会	29

第1章 スポーツ推進計画の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

近年、少子高齢化の進行、人間関係の希薄化、高度情報化社会の進展など、社会環境や価値観の急激な変化に伴い、スポーツをとりまく環境も変化してきています。

子どもたちの体力の低下、日常的に運動をする子どもとそうでない子どもの二極化の課題、働き盛り世代における運動不足によるストレスの増大や心身の健康問題、高齢期の健康寿命延伸に向けた習慣的な運動の必要性、日常的な身体活動量の減少による各世代におけるロコモティブシンドローム^{※1}の増加など、スポーツに関連する課題は増大しています。また、地域コミュニティを活性化し、地域住民の一体感や活力を醸成するうえでも、スポーツの役割が大きくなってきています。

こうしたことを背景として、国はスポーツに関する基本理念を定め、国と地方公共団体の責務等を定めた「スポーツ基本法」を制定しました。飯田市では、同法に基づき、今後の本市スポーツ行政を総合的に推進するため飯田市スポーツ推進計画を策定することとしました。

※1 ロコモティブシンドローム：疾患や加齢等に伴う運動器の障害のために、自分で移動する能力が低下して介護を必要とする状態、あるいは要介護リスクが高まった状態。「運動器」…身体を動かすときに連携して働く骨、関節軟骨、椎間板、筋肉、神経系など。

2 計画の性格

飯田市スポーツ推進計画は、平成29年度を初年度とする「いいだ未来デザイン2028（飯田市総合計画）」、「第2次飯田市教育振興基本計画」に対応する体育・スポーツ分野の個別計画として位置づけ、今後のスポーツ推進のための基本方針・基本目標・施策の展開について明らかにします。



（公財）飯田市体育協会 普及・啓発事業
「スポーツ障害の予防とコンディショニング^{※2}」

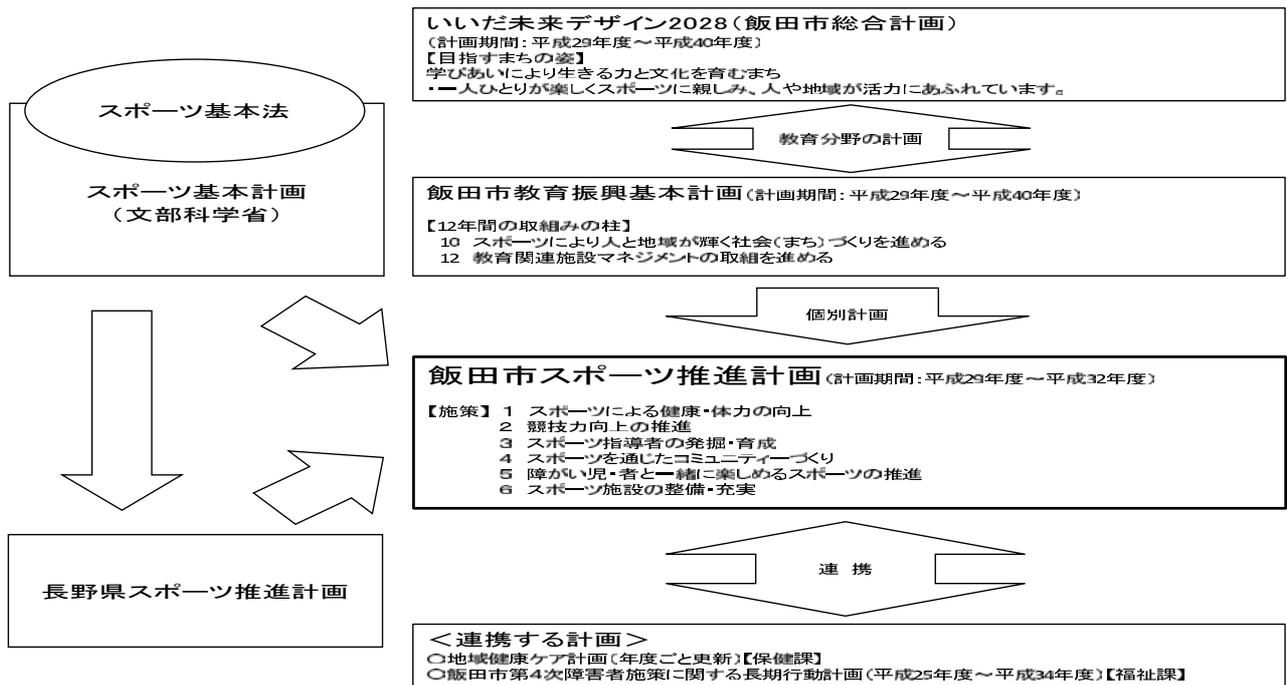
※2 コンディショニング：体調や環境などをととのえること。

3 計画期間

計画期間は、平成29年度（2017年度）を初年度とし、平成32年度（2020年度）を目標年度とする4か年間を対象とします。

なお、計画期間内であっても、新たに計画に盛り込むべき事項が生じた場合は、必要に応じ計画を見直します。

計画の関連図



第2章 計画の基本方針

1 計画の基本理念

「スポーツを通じて人と地域が輝く社会(まち)飯田」

飯田市は豊かな自然・文化に恵まれ、公民館活動などの住民の主体的な取り組みにより多様なスポーツ活動が展開されています。

スポーツは、個人の心身の健康増進のみならず、地域コミュニティづくりにもつながります。特に、子どもにとってスポーツは健全な体と豊かな心を育む重要な活動となっています。また、市民の身近で高いレベルの競技が見られることや飯田市出身のアスリートが輩出されることは、市民のスポーツ



テーピング講習会(飯田市スポーツ推進委員協議会)

への関心を高めるとともに、市民に夢と希望を与えることとなります。

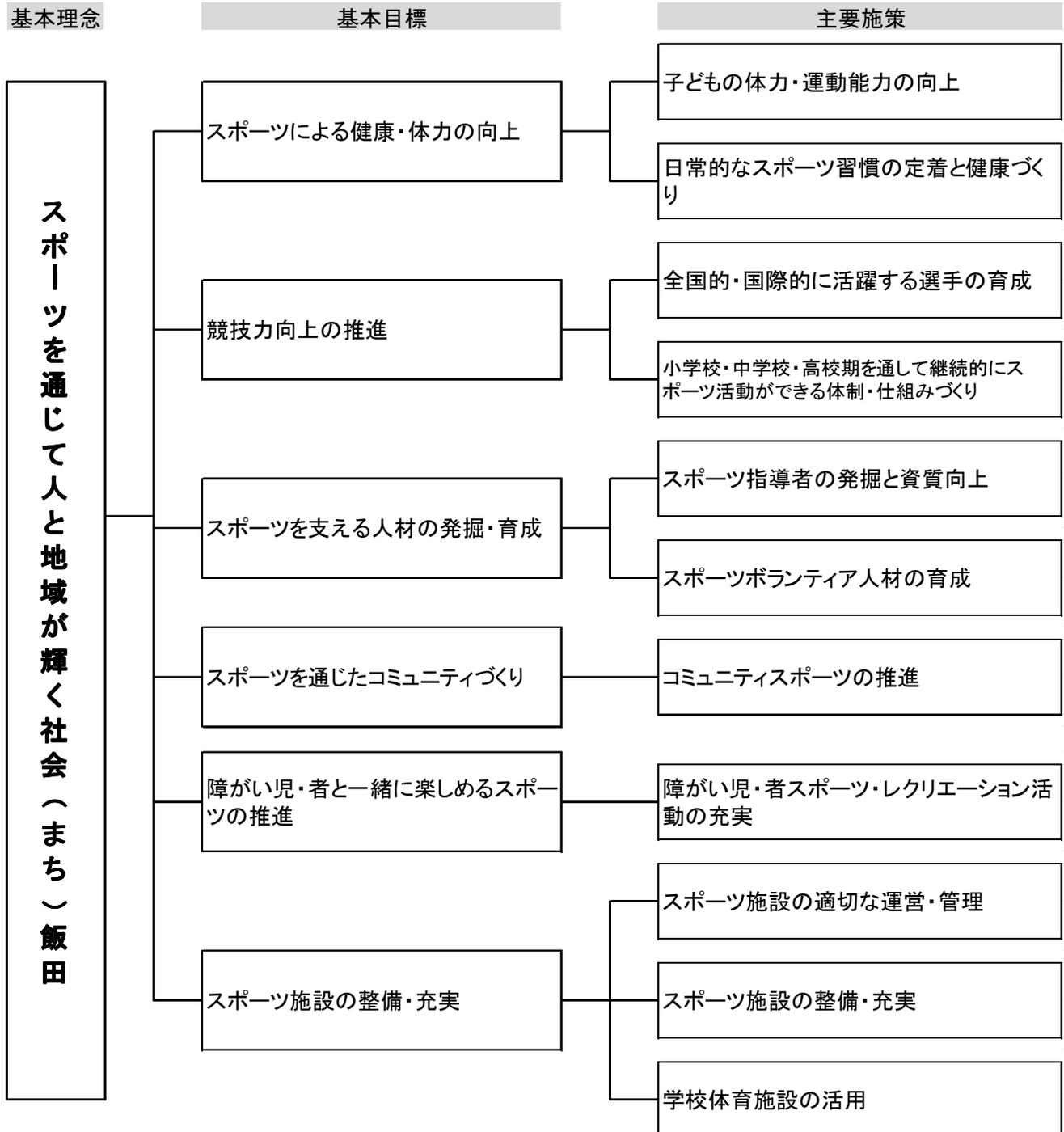
そこで、飯田市では、生涯スポーツの推進、コミュニティスポーツ^{※3}の推進、競技スポーツの振興を通して「人と地域が輝く社会(まち)」をめざします。併せて、市、学校、(公財)飯田市体育協会、スポーツ推進委員、関係スポーツ団体及び市民などの多様な主体が互いに協働しながら、社会(まち)づくりを進めることを基本理念とします。

※3 コミュニティスポーツ：市町村などの地域社会で、住民が自発的に行うスポーツ活動。肉体的、精神的向上だけでなく地域社会の連帯を強めることを目的とする。

2 計画の構成

基本理念に基づき、以下の6つを基本目標に掲げ取り組みます。

施策の体系図



3 達成目標

達成目標は、施策の達成度をできるだけわかりやすく示す指標や目標値を示します。計画期間中においても施策の進捗により見直すことがあります。

(1) 子どもの体力・運動能力

指標名	現状（平成 28 年度）	目標 （平成 32 年度）	備考
運動能力総合評価の A・B 評価（運動能力が高い）の割合 （調査対象である小学校 5 年と中学校 2 年の 平均値）	40.6% （全国 43.7%、 長野県 43.0%）	全国値以上にす る	

※「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査結果を基に目標値を設定。

生活の利便性の向上や生活様式の変化などにより、日常生活における子どもの身体活動の減少やスポーツ活動時間が減少し、基礎的な体力や運動能力が低下傾向にあります。また、スポーツや運動を積極的にする子どもとそうでない子どもの二極化も進んでいます。

子どもたちがスポーツに親しみ、その楽しさや喜びを味わう機会を確保し、体力や運動能力の向上を図ることは、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現や競技力向上につながります。

(2) 成人の日常的なスポーツ習慣

指標名	現状（平成 27 年度）	目標 （平成 32 年度）	備考
成人の週 1 回以上スポーツに 親しむ人の割合	38.8% （全国 40.4%、長野県 45.1%）	45%	

※「体力・スポーツに関する世論調査」・「市民意識調査」の調査結果を基に目標値設定。

日常的にスポーツを習慣化することで、市民一人ひとりの体力の向上、ストレス解消、生活習慣病の予防など、心身両面にわたる健康の維持、増進が期待できます。また、スポーツを通じて市民が交流することで、地域の一体感や活性化につながります。

第3章 計画の基本目標と施策の展開

＜基本目標1＞ スポーツによる健康・体力の向上

【4年後の目指す姿】

- ・運動好きの子どもが増えるとともに、子どもたちのスポーツに対する多様なニーズに対応できる環境・指導者が整い、子どもたちが楽しくスポーツに親しんでいます。
- ・ウォーキングやニュースポーツが幅広い年齢層に普及し、市民の日常生活における運動習慣が定着しています。

1 子どもの体力・運動能力の向上

(1) 子どものスポーツ機会の充実

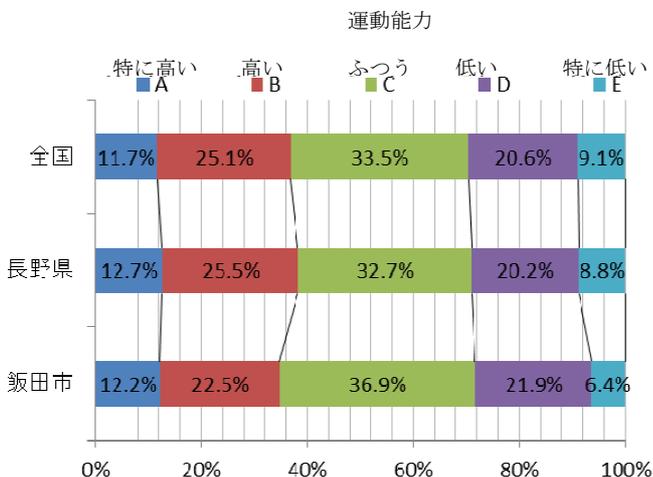
現状と課題

- ◆文部科学省が実施した平成28年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の総合評価では、飯田市の児童・生徒のA・B評価（運動能力が高い）の割合は、小学校5年生、中学校2年生どちらも全国・県の割合を下回っており、D・E評価（運動能力が低い）の児童・生徒が多くなっています。特に中学2年生女子についてはその傾向が顕著に現れています。
- ◆社会環境や生活様式の変化から、幼児期に体を動かして遊ぶ機会が減少しており、多様な動作（身のこなし）ができる能力や体力などに影響を与えています。
- ◆また、特に中学生期における運動習慣においては、日常的に運動する子とそうでない子の二極化が進んでいます。

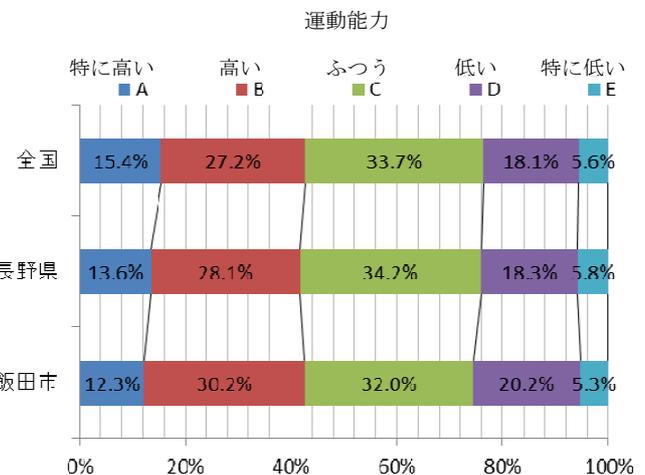
文部科学省「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」（平成28年度）

※全国の小学5年生、中学2年生が対象の調査です

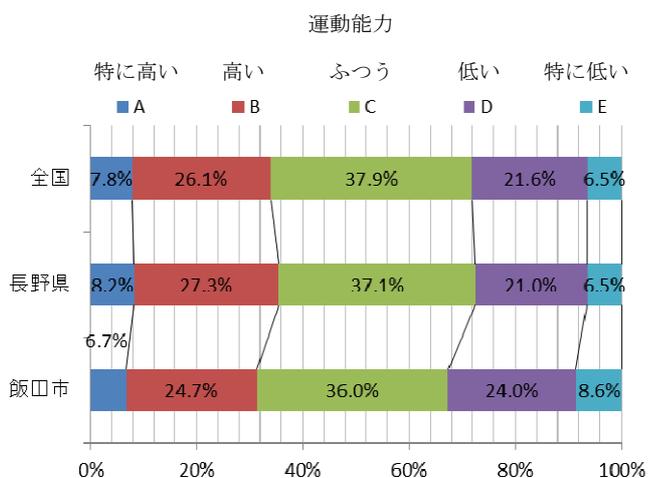
平成28年度総合評価（小5男子）



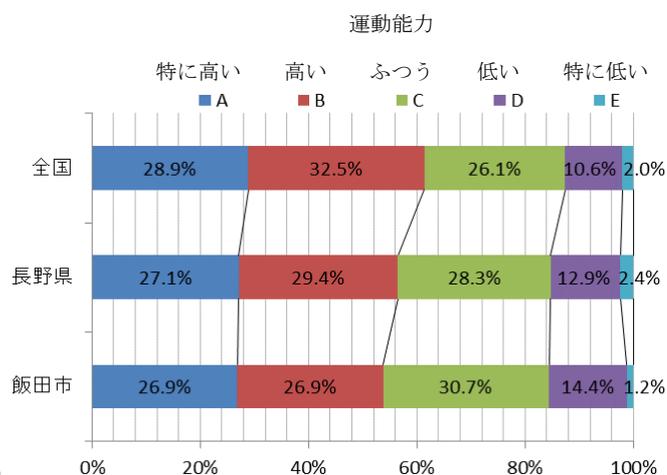
平成28年度総合評価（小5女子）



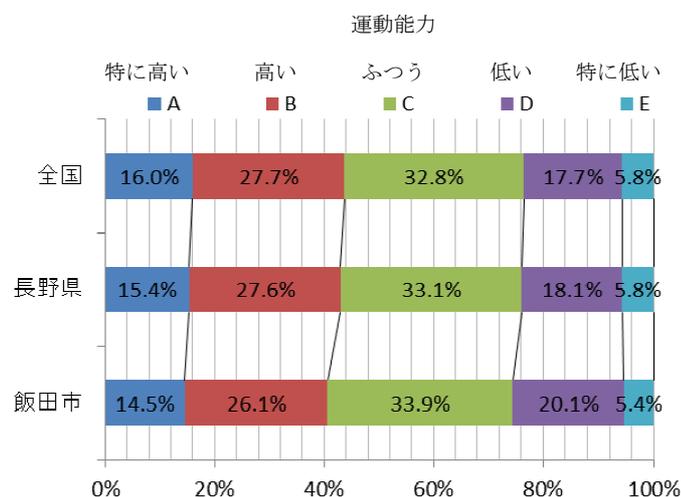
平成 28 年度総合評価（中 2 男子）



平成 28 年度総合評価（中 2 女子）



平成 28 年度総合評価（小 5・中 2 平均値）



【AB の合計値】

全国 43.7%、長野県 43.0%、飯田市 40.6%

施策の展開

○「歩育」の実践

- ・歩いて自然や社会に触れ、五感を開き体で学ぶ直接体験を通じて子どもたちの豊かな心、生きる力を育てる「歩育」を実践し、歩くことの習慣化に向けて保育・教育現場や身近な地域・家庭に働きかけていきます。

○運動学習能力を高めるプログラムの実践

- ・神経系の発達が著しい年代である幼児期から学童期の子どもの体力・運動能力の向上に向けて、（公財）飯田市体育協会や指導者組織とともに運動学習能力を高めるプログラムの体験会と定期教室の開催及び同プログラムの学校と保育所等への導入を進めます。
- ・運動学習能力を高めるプログラムの地元指導人材のスキルアップを支援するとともに、教員や保育士がプログラムを学ぶための講習会を定期的で開催し、教育・保育現場での普及に繋がります。

○複合的な運動の体験の推進

- ・幼児期から学童期は、単一のスポーツ種目に偏らず、複合的な運動の体験を推進することで、多様な動作(身のこなし)ができる能力を育てていきます。

○外遊び・日常的に歩くことの重要性

- ・子どもを対象にした各地区の公民館やまちづくり委員会の活動において、地域の自然環境を活かした遊びや、世代を越えた昔ながらの遊びの伝承など、外遊びの楽しさを伝える活動の充実を図ります。
- ・保育所等や保健課との連携により、外遊びや日常的に歩くことが運動能力・体力向上へ良い影響があることの紹介など、幼児期から運動に親しむための保護者への啓発活動を行っていきます。



(公財) 飯田市体育協会 体力・運動能力向上教室
「めざせスポーツ万能！」

○親子でスポーツを楽しむ機会の充実

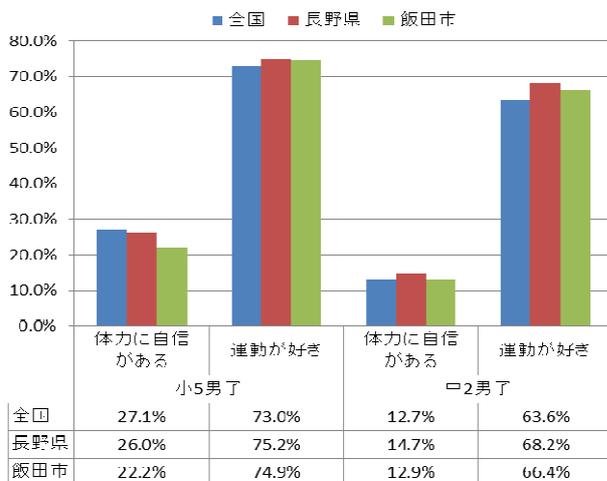
- ・小中学校の学年・学級単位で開催する「親子レク」の取組みとして、だれでも気軽に楽しめるニュースポーツを推進し、スポーツを親子で楽しむ機会を増やすことで、子どものスポーツへの興味関心を育てます。

(2) 学校体育の充実

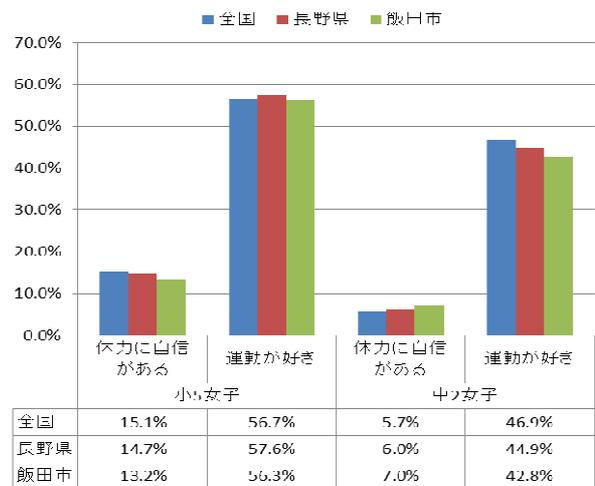
現状と課題

- ◆「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の平成28年度「運動に関する意識」では、学年が進むにつれて、運動が好き、体力に自信があると考えられる子どもの割合が減っています。児童・生徒が運動の楽しさを知り、苦手意識をいだかないような教育指導や運動習慣を学校生活に定着させていくことが必要です。

平成28年度運動に関する意識(男子)

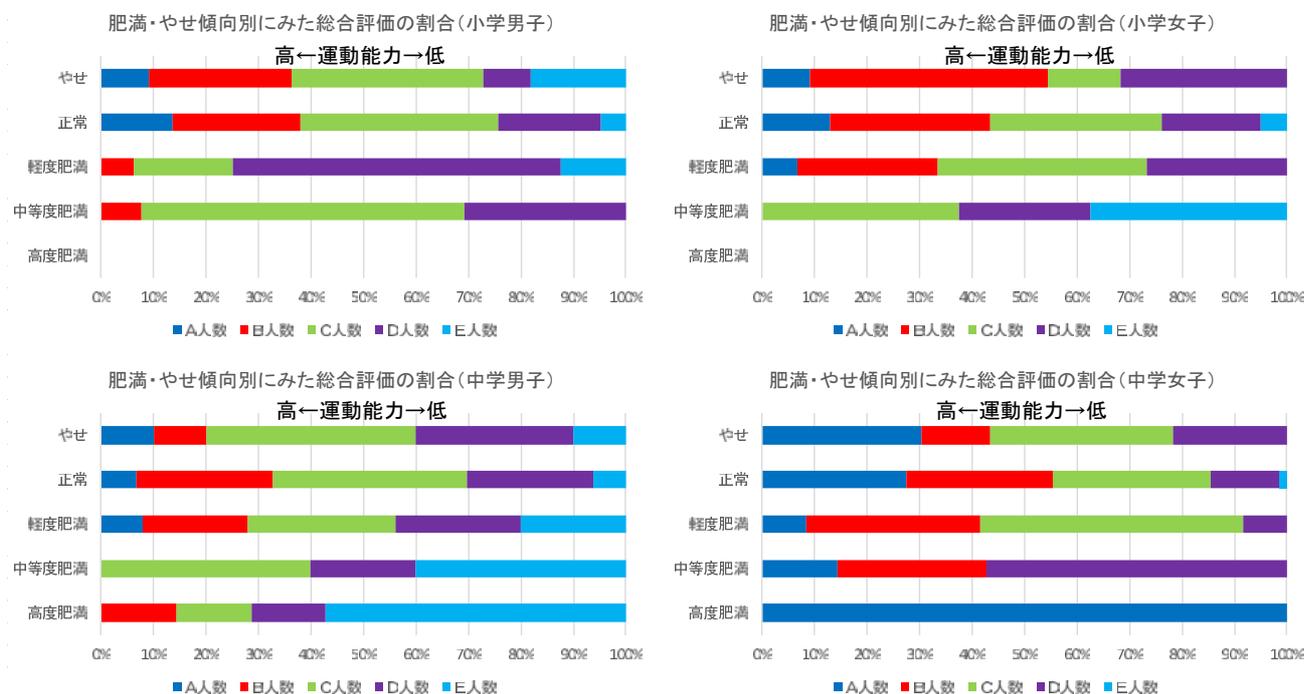


平成28年度運動に関する意識(女子)



文部科学省「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(平成28年度)

◆同調査で体格と総合評価との関係を見ると、飯田市の肥満・やせ傾向の児童生徒は、小学校及び中学校の男女ともにA・B評価（運動能力が高い）の割合が低く、D・E評価（運動能力が低い）の割合が高くなっています。



文部科学省「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(平成28年度 飯田市)

施策の展開

○運動・スポーツが楽しいと感じる環境づくり

- ・保健体育授業や、昼休み・休み時間の自由遊び、小中学校毎に工夫した「一校一運動」の取り組みなど、学校生活の多様な場面で体を動かして遊んだり、スポーツをする機会を取り入れ、子ども達の興味や関心を引き出し、楽しいと感じる環境づくりを進めます。

○小中学校時代のスポーツの楽しさ発見と体感

- ・小中連携・一貫教育の取組みとして、小学校と中学校の職員が共通の目標や願いをもって、児童生徒に「できた」という達成感や「やればできる」という自己肯定感を高められる授業を展開していきます。

○スポーツに親しむスポーツイベントへの積極的な参加

- ・「飯田やまびこマーチ」や「風越登山マラソン大会」など、飯田市のスポーツイベントに学校・学級・PTA単位等で積極的に参加することで、身近なスポーツへの興味関心を育てます。

○基本的な生活習慣の定着

- ・公民館・保健課と連携して、食生活や規則正しい生活リズムなど、基本的な生活習慣の定着を図ることで、運動意欲の向上に繋がります。

(3) 中学校期のスポーツ活動における適切な指導体制の充実

現状と課題

- ◆各中学校の部活動と社会体育活動の活動体制については、中学校ごとのスポーツ活動運営委員会を設置し、家庭、学校、地域及び指導者が連携して実施しています。
- ◆中学校期のスポーツ活動を取り巻く環境は、過度な活動による肉体的・精神的な弊害や勝利至上主義の偏重などによる課題が指摘されています。
- ◆楽しみを伴わない過重なトレーニングなどにより、スポーツ嫌いやバーンアウト（燃え尽き症候群）に陥るケースがあります。

施策の展開

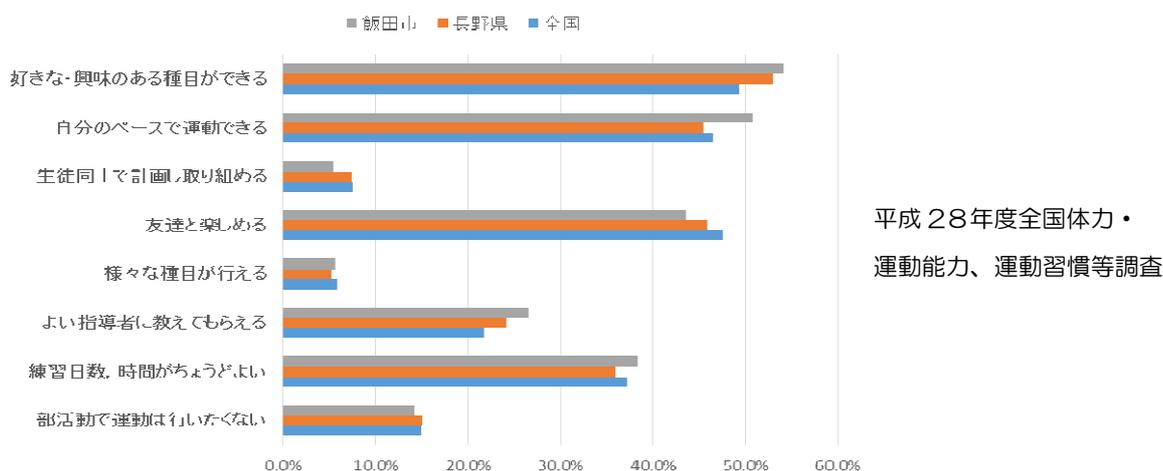
○家庭、学校、社会体育指導者の連携体制づくり

- ・家庭、学校、社会体育指導者が互いに連携を取りながら、子ども一人ひとりのスポーツ活動時間と休養時間とのよりよいバランスが保たれるよう、日常的に適切な管理指導を行っていきます。
- ・飯田市が学校ごとにコミュニティスクールを推進する中で、学校部活動指導者と社会体育指導者および地域のスポーツ関係者等が共通理解のもと、連携して指導が充実するように働きかけます。

○指導環境の充実

- ・（公財）飯田市体育協会との連携により、指導技術の優れた地元人材を学校に紹介し、学校部活動の指導環境の充実を図ります。
- ・学校部活動指導者や社会体育指導者を対象に、生徒の人格形成への支援と競技技術を高める指導とのバランスを常に意識した指導にむけて、指導研修の機会を充実します。

文化部または所属していない人の運動部活動への参加条件



(4) 地育力を活用したスポーツの推進

現状と課題

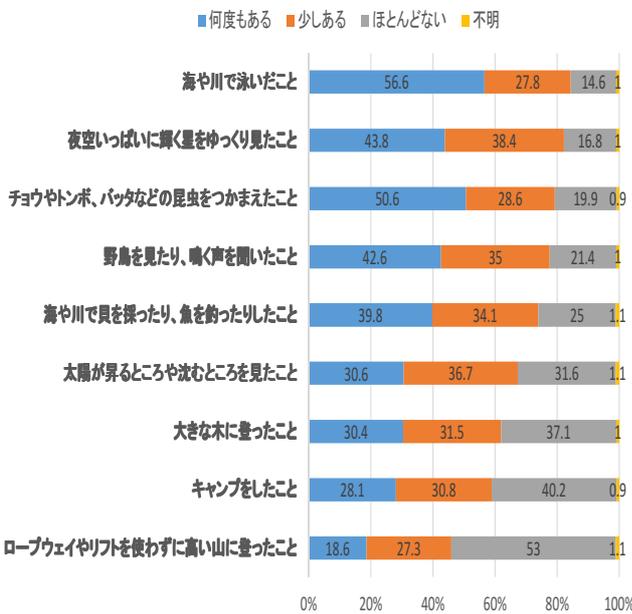
- ◆積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化が顕著に認められることから、運動習慣が身に付いていない子どもに対する支援の充実が必要です。

◆国立青少年教育振興機構が実施した「青少年の体験活動等に関する実態調査」（平成24年度調査）の結果から、自然体験が多い子どもの方が体力に自信があるということがわかります。このことから、学校や地域において、体力向上が期待できるような様々な自然体験学習を充実させる必要があると言えます。

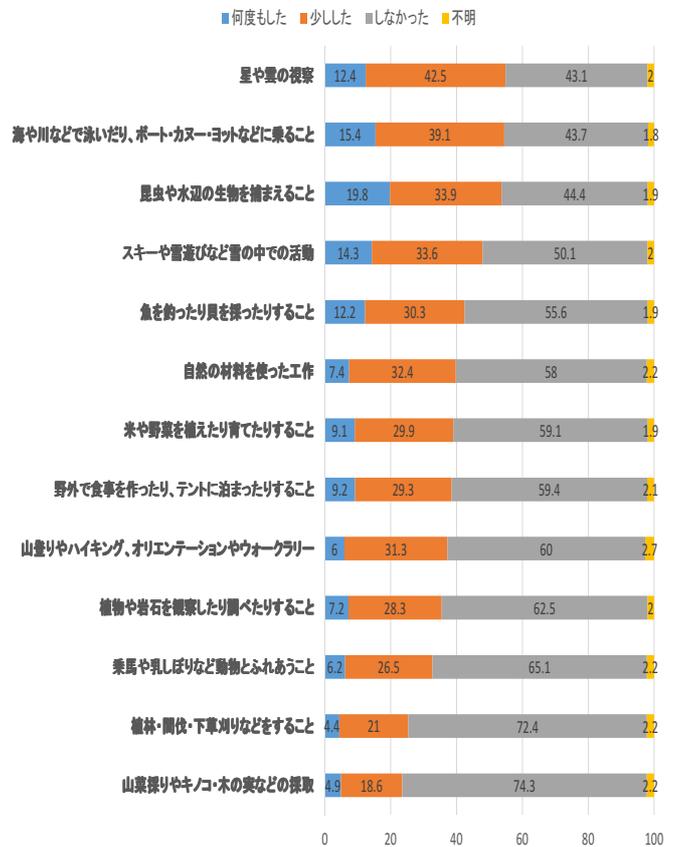
「秋の味覚と健康ウォーク」



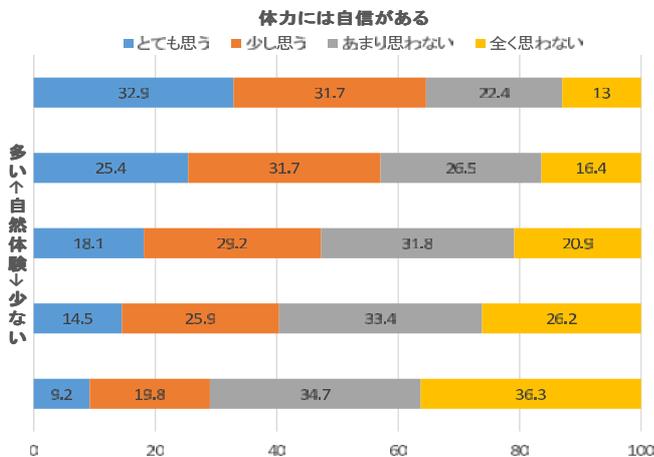
①自然体験の実態



②学校の授業や行事以外の自然体験活動



③自然体験と「体力には自信がある」の関係



①②③：「青少年の体験活動等に関する実態調査」（平成24年度調査 全国学生、中2、高2対象）
国立青少年教育振興機構調べ

施策の展開

○地域資源である豊かな自然を活かした自然体験活動の促進

- ・学校や地区公民館等を中心に、飯田市の地域資源である豊かな自然を活かした学校登山や自然体験活動を促進し、子どもの運動能力・体力の向上に繋がります。

○地域人材による子どものスポーツ機会の提供

- ・PTAや公民館委員など、子どもの健全育成に関わる地域人材と連携して、運動習慣のない子どもでも気軽に参加できるようなスポーツ機会を提供していきます。
- ・スポーツ少年団公認指導者などの地域人材を活用し、ジュニア期のスポーツ指導や、からだと心の発育発達特性などの年齢に応じた適切な指導をおこなうことで、スポーツの楽しさを味わい、習慣的にスポーツ活動ができる子どもを育てます。

2 日常的なスポーツ習慣の推進と健康づくり

(1) いつでも・どこでも・だれでも気軽に取り組めるスポーツの普及

現状と課題

- ◆飯田市における週1回以上スポーツに親しむ成人の割合（運動・スポーツ実施率(平成27年度)）は、38.8%で、全国（40.4%）、長野県（45.1%）の実施率を下回っています。
- ◆文部科学省が実施した「体力・スポーツに関する世論調査」では、「運動・スポーツを行った理由」として、「健康・体力づくり」を目的としている人が最も多く、体を動かすことの必要性は多くの人が認識していると言えます。また、運動種目としては、ウォーキング（歩け歩け、散歩などを含む）、体操（ラジオ体操、職場体操、美容体操、エアロビクス、縄跳びを含む）の割合が特に高くなっています。しかし、同調査の「運動・スポーツを行わなかった理由」では、「仕事が忙しくて時間が無い」という理由が最も多くなっており、いつでも・どこでも・だれでも気軽に取り組めるスポーツの普及を通じて、市民の運動習慣の確立を図る必要があります。
- ◆飯田市や近隣の町村の事業所が、地域ぐるみ環境ISO研究会^{※4}の呼びかけにより定期的を実施している「ノーマイカー」の取り組みは、二酸化炭素の排出抑制といった環境改善の側面ばかりではなく、徒歩や自転車通勤が運動習慣として定着することによって、健康づくりや体力の向上が期待できます。

※4 地域ぐるみ環境ISO研究会：飯田下伊那地域の約30事業所で構成され、それぞれの事業所の枠を超えて環境改善活動を自主的・主体的に展開している組織。

施策の展開

○日常的な運動習慣の定着のためのウォーキングの普及（「歩くまちづくり」の推進）

- ・いつでも・どこでも・だれでも気軽に行うことのできるウォーキングについて、その効果や正しい歩き方を学ぶ講座の開催及び歩くきっかけづくりとなるウォーキングイベントの実施を通してウォーキングの普及・啓発に重点的に取り組んでいきます。

- ・ランニング、ウォーキングをしやすい路上環境など、日常的に生活の中へスポーツを取り入れやすい環境整備を検討していきます。

○手軽に楽しめるニュースポーツの普及活動

- ・手軽に楽しめるニュースポーツを、公民館や各地区のスポーツ推進委員が主体となって、より一層普及していきます。

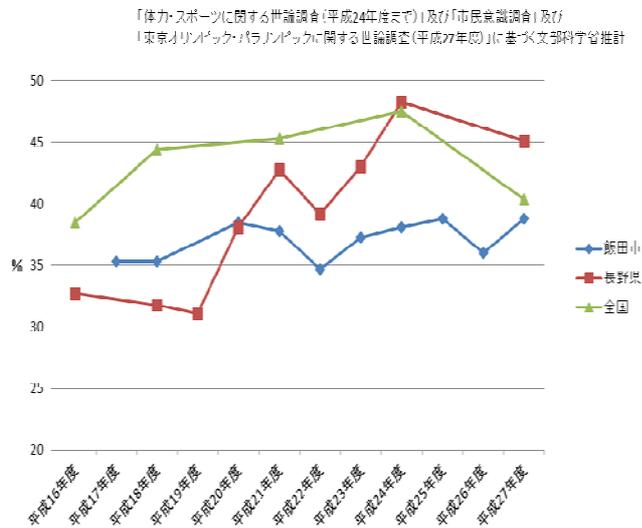
○運動実践講座・教室の継続的な実施

- ・保健課と各地区の公民館が核となって、中高年を対象とした運動実践講座・教室を継続的に実施していきます。

○環境施策と連動したスポーツ振興

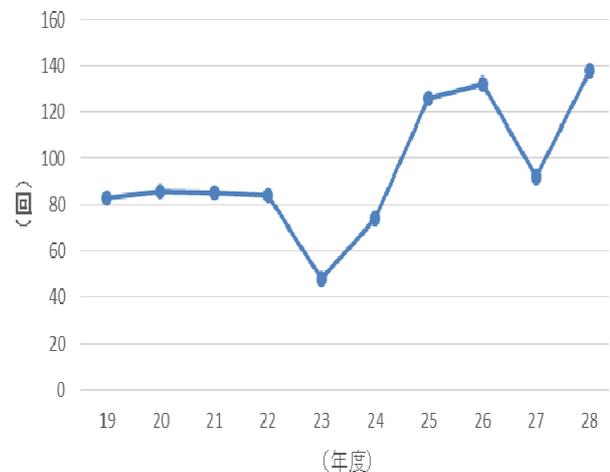
- ・関係部局と連携し、環境改善の取り組みを運動・健康づくりという側面から見た効果や、より効果的な歩き方等を紹介する講習会を事業所ごとに開催し、日常的な運動習慣に発展させます。
- ・徒歩や自転車通勤など、事業所ぐるみで運動習慣の定着に向けた取り組みを計画・実践している事業所を認定し、市ホームページ等に事業所名を公表することで、事業所のイメージアップや、PR活動の材料として活用していただきます。また、認定事業所で実施するスポーツ講習会等の講師として地域のスポーツ推進委員や保健師を派遣し、スポーツ振興を通じて地域と事業所の結びつきを強くします。

成人の週1回以上スポーツ実施率の推移



1事業所当たりのノーマイカー取組み回数

(回/年)



(2) 気軽に参加できて、スポーツ習慣のきっかけとなるようなイベント等の充実

現状と課題

- ◆スポーツイベントへの参加者について、積極的に継続して参加する人と全く参加しない人の二極化が見受けられます。初心者でも参加しやすく、スポーツ習慣のきっかけとなるようなスポーツイベント等の開催について検討が必要です。

- ◆スポーツ推進委員が主体になって開催しているニュースポーツフェスティバルは、県下でも他に無いほどの参加規模で開催されており、幅広い年齢層にニュースポーツを浸透させています。

施策の展開

○スポーツ習慣のきっかけとなるようなスポーツイベント・教室の充実

- ・いつでも・どこでも・だれでも気軽に取り組めるウォーキングの習慣化に重点を置いた定期教室を開催し、ウォーキングの成果の確認や、習慣化のコツを学ぶ機会づくりをします。
- ・スポーツ推進委員を中心に、地区ごとに開催されているウォーキング関連事業に併せてウォーキング講習会を開催し、正しい歩き方や、より効果的な歩き方を知ってもらうことで、習慣的な取り組みに繋がります。また、より多くの市民が参加できるように広報活動を強化します。
- ・スポーツイベント関連事業については、市民の多様化するニーズにこたえとともに、運動・スポーツを行うこと目的（競技力向上、健康・体力づくり、コミュニティづくりなど）に的確に対応したスポーツイベントを開催できるように、関連部署、組織等との連携体制づくりをします。
- ・ニュースポーツフェスティバルの開催内容について更に検討を重ね、初心者でも気軽に参加できるイベントにしていきます。また、将来は市民が主体となって大会開催ができるような仕組みづくりをしていきます。

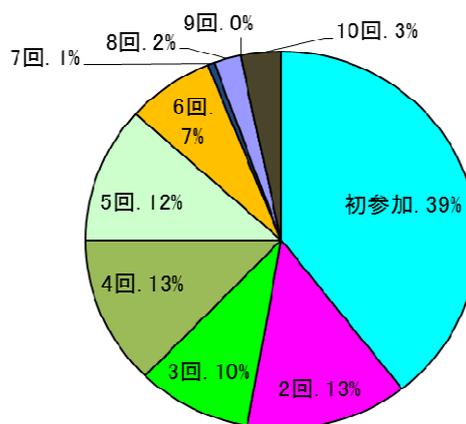
(3) 高齢者スポーツの支援

現状と課題

- ◆総務省統計局の「労働力調査」の結果から、65歳以上の就業者人口が増え続けていることがわかります。現役世代と同様に、高齢者も仕事・家事で忙しい人が増えていることから、手軽に楽しめるスポーツの普及が課題と言えます。
- ◆平成26年度の飯田市新規介護認定者の原因疾患の状況から、年齢が高いほどロコモティブシンドロームが原因である割合が高くなっています。このことから、高齢期においても日常的な身体活動が大切であることがわかります。
- ◆手軽に楽しめるニュースポーツについて、高齢者対象の講習依頼や用具の貸し出しなどの需要が増えてきています。

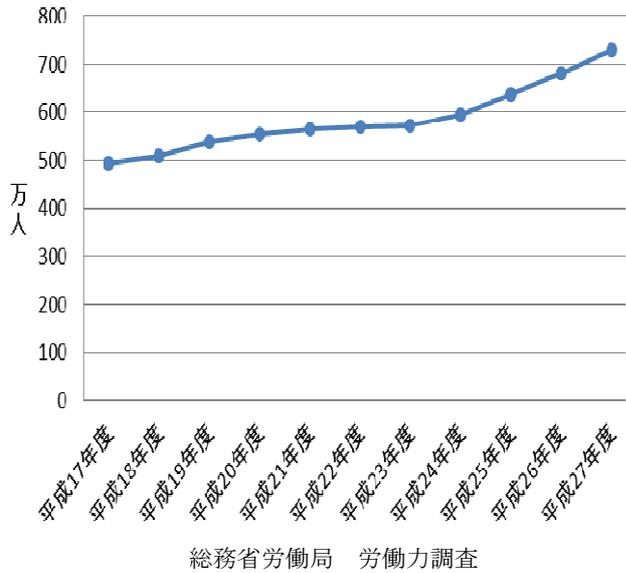
ニュースポーツフェスティバルの参加回数

(平成27年度参加者アンケート)

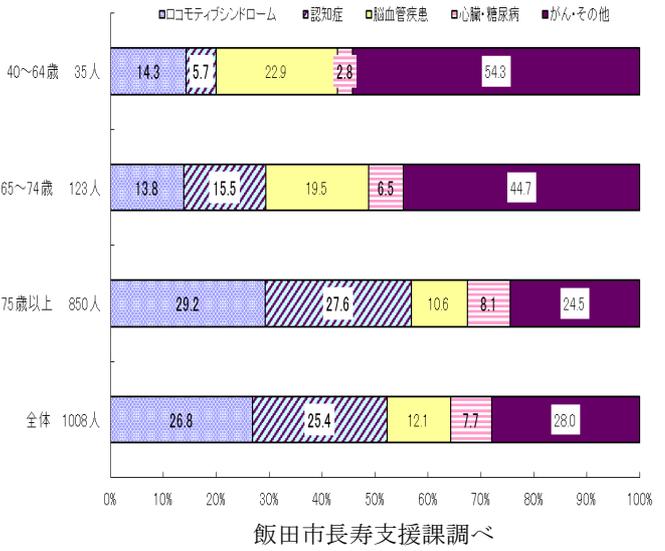


ニュースポーツフェスティバル（囲碁ボール）

就業者人口の推移（65歳以上）



平成27年度新規介護認定者年代別原因疾患の状況



施策の展開

○高齢者がいきいきと安全に過ごせるための運動・スポーツ機会の拡充

- ・(公財) 飯田市体育協会・スポーツ推進委員・公民館と連携し、高齢者がいきいき・活動的な生活を送り、健康や体力を増進させる運動・スポーツ機会の拡充をしていきます。
- ・各地区の公民館と連携し、日常生活の中で、体力に応じて取り組みやすいウォーキングの普及に向けて、きっかけとなるイベントや講座・教室を開催していきます。
- ・高齢者の需要が増えているニュースポーツについて、各地区のスポーツ推進委員を中心に体験会や講習会を開催し、高齢者が取り組みやすいニュースポーツやその楽しさを紹介していきます。

(4) 地域健康ケア計画と連携した健康づくり

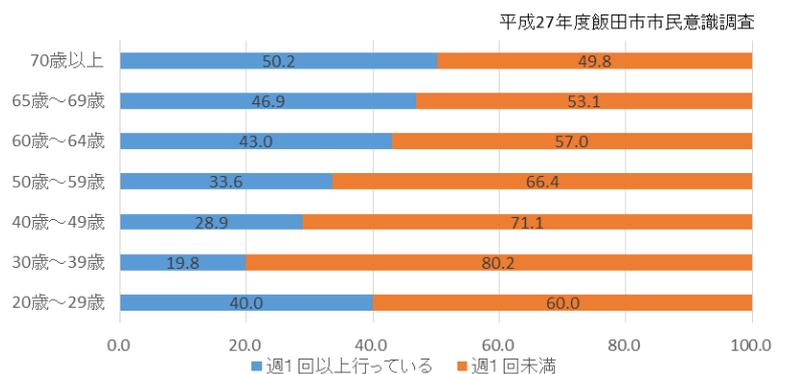
現状と課題

◆市民意識調査の結果から、特に飯田市を支えている働き盛りの年代（20歳～49歳）が、生活習慣病の予防のために心がけるべき身体活動が不足していると言えます。

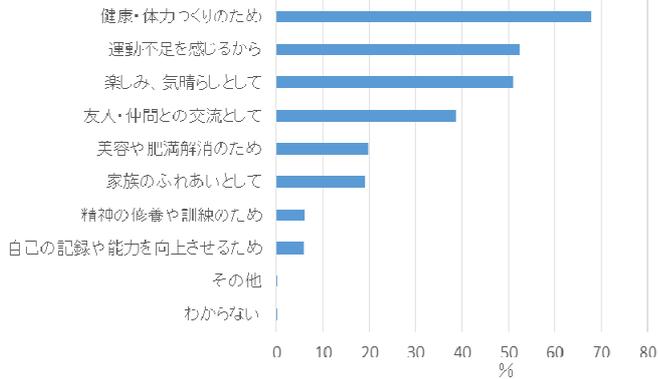
◆前述のとおり文部科学省

の「体力・スポーツに関する世論調査」では、健康・体力づくりのために運動・スポーツを行うことの効果や必要性の認識はあるものの、運動・スポーツをしたくても時間が取れないという現状があることがわかります。

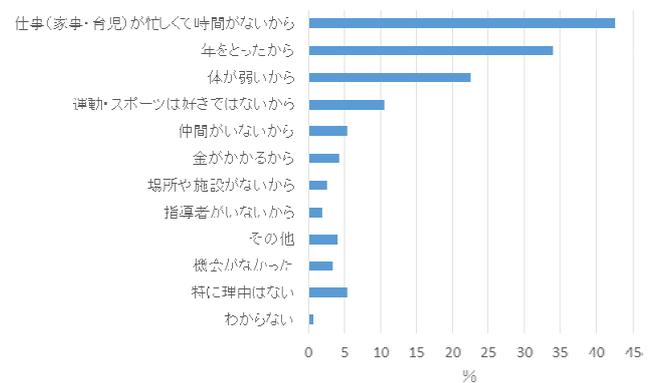
週1回以上スポーツ等を行っている人



運動・スポーツを行った理由
(この1年間に行った運動やスポーツを挙げた者に、複数回答)



運動・スポーツを行わなかった理由
(この1年間に「運動やスポーツ(しなかった)」「わからない」と答えた者に、複数回答)



内閣府「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査」(平成 27 年度)

施策の展開

○飯田市地域健康ケア計画との連携

- ・飯田市地域健康ケア計画の重点プロジェクトの一つである「歩こう動こう プラステン (+10分) ※5」について保健課、公民館、医療機関、関係する市民団体等と連携して取り組んでいきます。

歩こう 動こう プラステン(+10分)

『プラステン(+10分)』とは

“今より1日10分、多くからだを動かしましょう”

というメッセージです。

10分の活動は、約1,000歩の歩数、
距離にすると700~800mに相当



運動する時間をつくるのが難しい方は

普段の生活の中で、からだをこまめに動かし、身体活動量を増やす心がけを。

少しでも“多く”、少しでも“長く”、少しでも“元気に”動かしてみましょう。

プラステン(+10分)の効果は意外と大きい

- ・1年続ければ、体重を約2キロ減らすカロリーに相当します。
- ・死亡や病気の発症などの危険性が低くなります。(アクティブガイド活用ブックより)

死亡の危険性	2.8%減
生活習慣病等発症	3.6%減
がん発症	3.2%減
ロコモティブシンドローム(足腰の問題)発症 認知症発症	8.8%減



※5 プラステン：日常生活における身体活動（生活における全ての動き）を今より10分増やすことを推進する。

<基本目標2> 競技力向上の推進

【4年後の目指す姿】

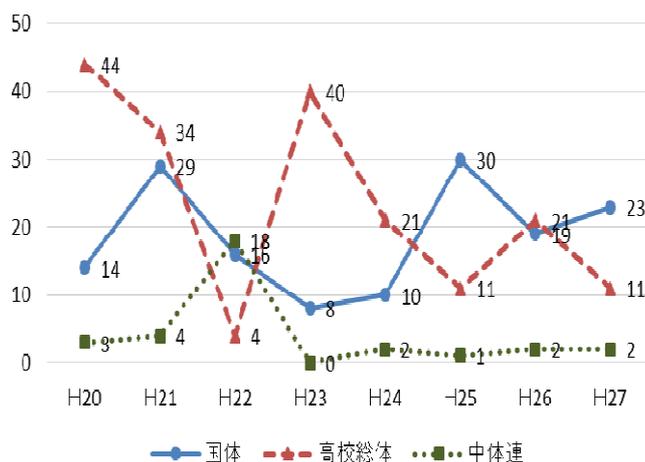
- ・全国大会やオリンピック・パラリンピックなどの国際舞台で活躍する地元出身選手が増加しています。

1 全国的・国際的に活躍する選手の育成

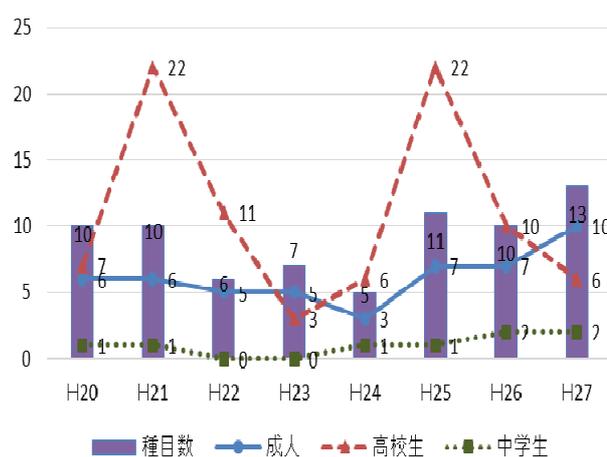
現状と課題

- ◆飯田市民の国民体育大会など全国大会への出場者数や出場種目数はほぼ横ばいの状況です。
- ◆より高度な競技レベル・指導者を求めて、市外の高校等への進学を選択する学生が増えています。
- ◆トップアスリートのプレーを間近で見ることは、市民のスポーツへの関心と子どもの競技力の向上につながります。

国体、高校総体、中体連等の出場選手 推移



国体出場選手の内訳および出場種目数



施策の展開

○全国的・国際的に活躍できる選手の育成

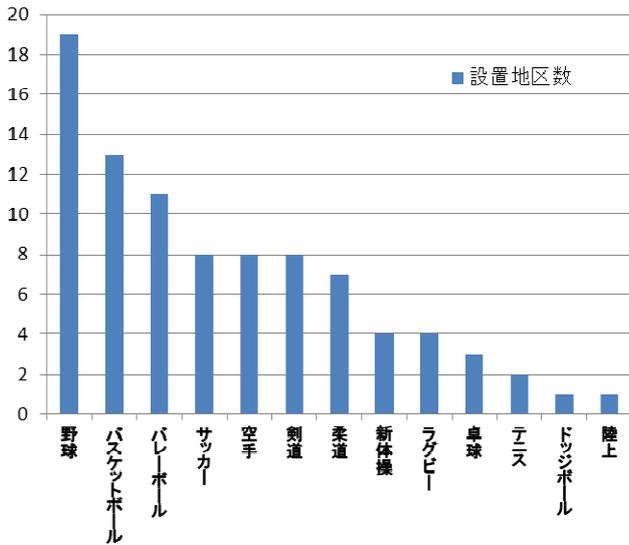
- ・(公財) 飯田市体育協会と連携し、各競技種目における高度な技術講習の機会の提供や、強化練習等の支援を行っていきます。
- ・市民とりわけ子どもが「観るスポーツ」を楽しみ、より質の高いプレーに触れることができるようトップスポーツの試合の誘致、トップアスリートとの交流の機会の拡大に取り組んでいきます。
- ・地元出身選手の活躍は、市民に対し元気と活力を与え、地域の一体感づくりに寄与することから、その活躍をたたえ、広く市民に周知します。
- ・(公財) 飯田市体育協会や民間スポーツクラブと連携し、地域でトップアスリートを育てることができる体制を目指します。また、一旦地域から離れて活躍した選手が、将来的に地域に戻って競技活動を継続したり、優れた指導者となって地域の競技レベルアップに貢献してもらえるような人材の受け皿について検討していきます。

2 小学校・中学校・高校期を通して継続的にスポーツ活動ができる体制・仕組みづくり

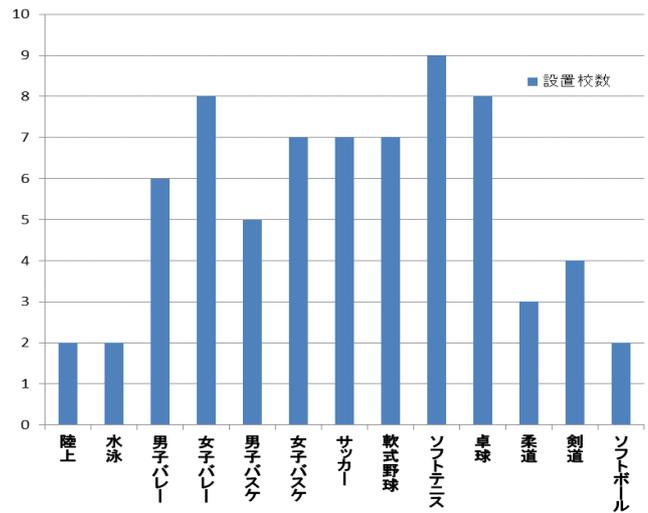
現状と課題

- ◆運動部活動では、生徒が進学前に取り組んでいた競技種目がないことにより別の競技を選択するなど継続的に競技に取り組むことができない状況があります。

少年少女クラブ競技別設置地区数
(平成 27 年度)



中学校運動部活動競技別設置校数
(平成 27 年度)



中学校運動部活動に関する調査（飯田市教育委員会）

施策の展開

- 小学校・中学校・高校期を通して継続的にスポーツ活動ができる体制・仕組みづくり
 - ・少子化による部員数の減少に対応し、小学校・中学校・高校期を通して継続的にスポーツ活動ができる環境を整備するため、各中学校ごとのスポーツ運営委員会におけるあり方の検討や、民間スポーツクラブ等との連携を図っていきます。
 - ・複数校による合同部活動や合同チームによる大会出場などの仕組みづくりを検討していきます。



ニュースポーツ体験会（飯田市スポーツ推進委員協議会）

（公財）飯田市体育協会 技術力向上事業
小出流「選手の心を育む指導のコツ」



＜基本目標3＞スポーツを支える人材の発掘・育成

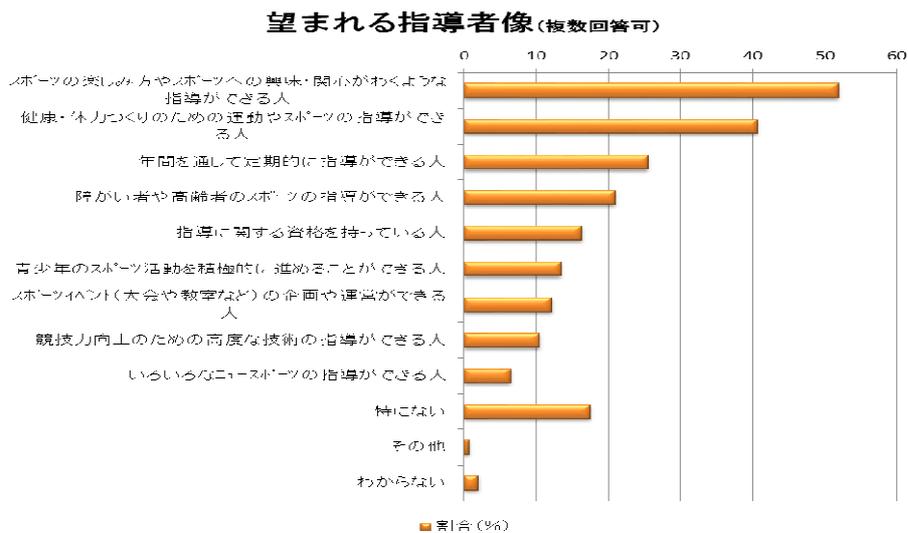
【4年後の目指す姿】

- ・各競技スポーツの指導者が、指導者同士の横の連携を密にし、切磋琢磨する組織体制ができています。
- ・市民の多様なスポーツニーズに対応できる指導者体制が整っています。
- ・スポーツボランティア活動など、スポーツを「支える」文化が育っています。

1 スポーツ指導者の発掘と資質向上

現状と課題

- ◆スポーツ指導者には、より高度な競技レベル・指導技術が求められています。
- ◆望まれる指導者像としては、「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」を挙げている人の割合が高くなっています。（「体力・スポーツに関する世論調査」より）。
- ◆スポーツ障害の予防や応急手当に必要なスポーツ医・科学の知識に基づいた指導やサポート体制が十分ではありません。
- ◆ウォーキングや体操など、時間を気にせず取り組める運動へのニーズが高まっており、そのニーズに沿った指導者が必要とされています。
- ◆競技種目や地域によっては中学校部活動の地域指導者（外部指導者）が不足している状況があります。
- ◆地域で育ったトップレベルの選手が、指導者としてその技術や経験等を地域に還元する仕組みが確立されていません。



文部科学省による
「体力・スポーツに
関する世論調査」
(平成 25 年 1 月実施)

施策の展開

○指導者の指導技術・資質の向上

- ・(公財) 飯田市体育協会と連携し、指導者の知識・指導技術の向上を図るための指導者講習会の充実と、公認スポーツ指導者の資格取得を促します。
- ・スポーツ少年団の活性化と、子どもたちにより安全で効果的な指導を行うために、各単位団における「認定員」の資格取得者の拡充に向けた働きかけをしていきます。
- ・青少年スポーツの指導者を対象に、「飯田市 社会体育活動における青少年スポーツ指導の指針」に基づいて、発達段階における指導ポイントを踏まえた適切な指導についての啓発活動を行います。
- ・(公財) 飯田市体育協会が主体となって、チームや競技種目、カテゴリーなどを越えた指導者同士の交流、情報交換の機会を設けることで、相乗的な指導技術の向上を図ります。
- ・医師・理学療法士などスポーツに関連する専門家と積極的に情報交換したりサポート体制に参画してもらうことで、総合的なスポーツ指導技術の向上を目指します。
- ・スポーツ推進委員の指導技術の向上を図り、市民ニーズの高いウォーキングやニュースポーツの指導体制を充実させます。

○地域指導人材の情報提供の充実

- ・(公財) 飯田市体育協会による指導者人材バンクの充実を図り、質の高い指導者を紹介できる体制を整えます。

○指導人材を創出する仕組みの確立

- ・地域で育ち、一旦地域から離れて活躍した選手が、将来的に地域の優れた指導者となって、自身の技術や経験を還元していけるような仕組みの確立について検討していきます。

2 スポーツボランティア人材の育成

現状と課題

- ◆「飯田やまびこマーチ」や「風越登山マラソン大会」などの飯田市のスポーツイベントは、市民ボランティアのおもてなしによって支えられており、飯田市のスポーツイベントの魅力の一つとなっています。

施策の展開

○スポーツを「支える」土壌づくり

- ・地域の中학생や高校生にスポーツイベントの運営等に積極的に関わってもらうことで、スポーツを「支える」土壌づくりを進めます。また、地域のスポーツイベントに関係する団体等と連携を深め、スポーツを「支える」喜びをより一層地域に浸透させることで、地域の活性化に繋がります。



飯田やまびこマーチ

＜基本目標４＞スポーツを通じたコミュニティづくり

【４年後の目指す姿】

- ・コミュニティスポーツが市民に浸透し、一体感・活力のある飯田市が実現しています。

１ コミュニティスポーツの推進

現状と課題

- ◆近年、少子高齢化や情報化の進展、地域社会の空洞化や人間関係の希薄化など、社会環境や価値観が急激に変化しています。これらの課題に対応していく上で、地域住民と一緒に運動する機会を持つことは、コミュニティを活性化する上で有効な手段といえます。
- ◆三遠南信自動車道の全線開通が近づいてくる中で、地理的、歴史的に深い絆で結びついている三遠南信地域との住民連携を、今後さらに進めていく必要があります、スポーツという観点からも交流を活性化していく必要があります。

施策の展開

○地域コミュニティ活性化のためのスポーツ活用

- ・スポーツ推進委員と公民館が核となって、地域住民の交流と一体感・活力の醸成のため、コミュニティスポーツの推進やサークル育成等の支援、文化活動との連携を図ります。
- ・全市的なスポーツイベントや、各地域でのイベント等の地域活動において、学校や地域住民、地元企業との連携強化を積極的に行い、スポーツを活用した地域振興に取り組みます。
- ・ニュースポーツフェスティバルなどスポーツ事業を充実させ、スポーツを通じてより多くの市民が交流できるような機会を増やします。
- ・「飯田市中心道沿線都市親善スポーツ大会」にて、中央道沿線地域だけではなく、広く三遠南信地域の参加を促す事で、交流を深めていきます。



ニュースポーツフェスティバル
ワンバウンドふらば～るバレー交流大会より

＜基本目標5＞障がい児・者と一緒に楽しめるスポーツの推進

【4年後の目指す姿】

- ・障がい児・者がスポーツイベント等により多く参加し、一緒に楽しむ土壌が整っています。

1 障がい児・者スポーツ・レクリエーション活動の充実

現状と課題

- ◆当市の障がい者手帳（身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳）所持者は、平成27年度末で7,153人となっており、飯田市全体の人口に対して7%程度となっています。

身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳の所持者数(年度末)

年度	人口	身体障がい者		知的障がい者		精神障がい者		合計	
		人数	人口比率	人数	人口比率	人数	人口比率	人数	人口比率
22	104,771	5,608	5.4	683	0.7	483	0.5	6,774	6.5
23	104,291	5,267	5.1	591	0.6	491	0.5	6,349	6.1
24	105,750	4,949	4.7	615	0.6	464	0.4	6,028	5.7
25	104,954	6,039	5.8	755	0.7	433	0.4	7,227	6.9
26	104,284	5,855	5.6	782	0.7	576	0.6	7,213	6.9
27	103,712	5,713	5.5	815	0.8	625	0.6	7,153	6.9

※平成23年度の知的の人数と、平成25年の身体と知的の人数が大きく増減したのは、各データを精査したことによる。

資料：厚生労働省障がい者統計及び飯田市福祉課の調査による

- ◆平成24年度に内閣府が行った障がい者に関するアンケートでは、約9割が障がいを理由にしたなんらかの差別や偏見があるのではと回答しています。これは、いまだに学校や職場、地域など日常の社会生活において、障がい児・者とそうでない人とが区別される状況があることを示しています。障がいの理解を深め、偏見や社会的障壁を解消していくきっかけとして、障がい児・者と一緒に楽しむスポーツやレクリエーション活動が求められています。

- ◆障がいがあってもいきいきと健康的に暮らしていける環境づくり、スポーツにより自己実現できる機会の充実が必要です。

差別や偏見の有無についての調査

	該当者数	あると思う(ア+イ)	あると思う(ア)	少しはあると思う(イ)	ないと思う(ウ)	わからない
	人数	%	%	%	%	%
平成24年度	1,913	89.2	56.1	33.0	9.7	1.1
平成18年度	1,815	83.0	52.0	31.0	15.1	2.0

資料：内閣府「障害者に関する世論調査」(平成24年)

施策の展開

○障がい児・者スポーツ・レクリエーション活動の充実

- ・障がい児・者のスポーツ参加機会の充実を図るため、市の主催行事やスポーツ関連の情報を積極的に提供するなど、関係部局などとの情報交換を密接に行います。
- ・障がい児・者スポーツ選手・チームと一緒に試合や交流を行うための情報提供やサポートを充実させます。
- ・やまびこマーチのコース設定など、障がい児・者と一緒楽しめるイベント企画、サポート体制を充実させます。



飯伊地区障がい者スポーツ大会より

<基本目標6 スポーツ施設の整備・充実>

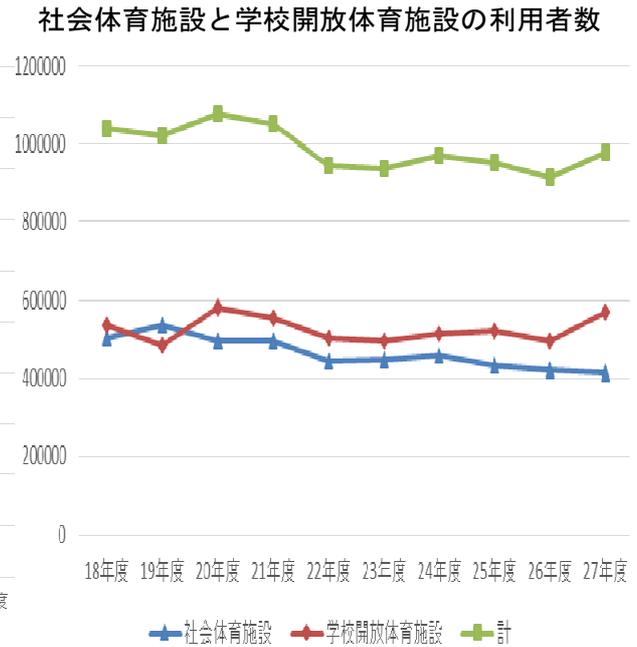
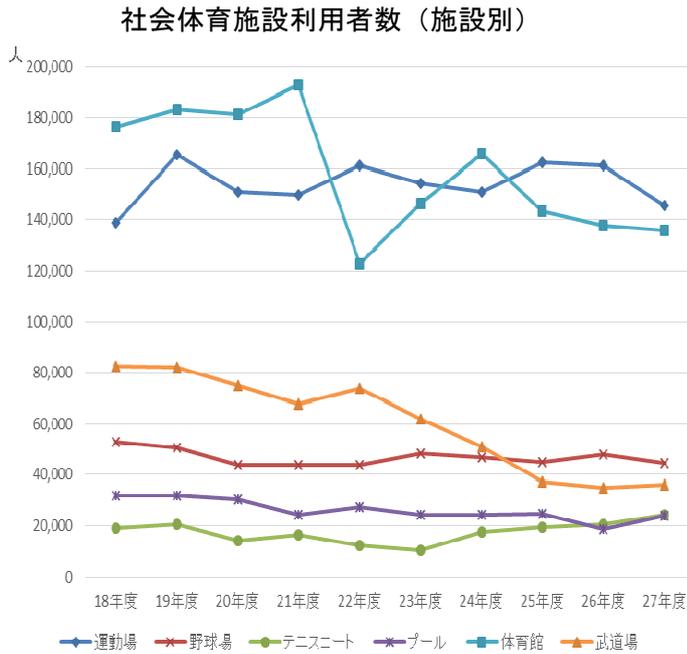
【4年後の目指す姿】

- ・誰もが安全・快適に利用できるスポーツ施設の整備やサービスの向上により、利用者が増加しています。

1 スポーツ施設の適切な運営・管理

現状と課題

- ◆スポーツ施設、用具類の適切かつ安全な使用方法の啓発により、予見できる危険の回避に努めるとともに、万一の事故の際には適切に対応することが施設管理者や指導者等に求められています。
- ◆スポーツ施設の利用目的について、ニュースポーツ、フットサル、ヒップホップダンスなど、市民のニーズが多様化してきています。



施策の展開

○スポーツ施設の利用時における安全の確保

- ・指導者及び施設管理者を対象にAEDの使い方や救急手当講習会を開催し、緊急対応能力の向上を図ります。
- ・利用者にスポーツ施設や用具の使用方法や熱中症対策等、施設の安全な利用についての啓発を行います。

○効率的かつ効果的な施設管理

- ・各スポーツ施設の設置目的や利用状況等により、指定管理・地元管理・直営管理する施設に区分し、より効果的・効率的で利用しやすい管理運営を進めていきます。

2 スポーツ施設の整備・充実

現状と課題

- ◆飯田市が管理するスポーツ施設は、社会体育施設（44施設）と学校開放体育施設（56施設）の合計100施設で、各施設の年間利用者数は延べ概ね100万人です。
- ◆緊急性・安全性を優先して、体育館の耐震改修をはじめ、必要となる改修工事を実施してきました。
- ◆（公財）飯田市体育協会に加盟している23の競技団体は、社会体育施設を中心に練習や各種大会で利用しており、競技レベルの向上に励んでいます。
- ◆社会教育団体として577のスポーツ団体が登録され、地域住民の生涯学習スポーツ活動で、学校体育施設を中心に施設を日常的に利用しスポーツを楽しんでいます。
- ◆スポーツ施設のバリアフリー化を進める必要があり、だれでも利用しやすい環境の整備が求められています。

- ◆当市のスポーツ施設は、設置後 30 年以上経過する施設が全体の約 6 割を占めており、改修・修繕を必要とするものが多くなっています。

施策の展開

○スポーツ施設の整備・改修

- ・ 今後は計画的な改修工事を実施することにより、スポーツ施設の長寿命化を推進します。
- ・ 施設の利用状況を考慮し、統廃合や複合化を含めた今後の施設のあり方については、飯田市公共施設マネジメント基本方針に則って検討を進めます。
- ・ 利用者のニーズに配慮しながら、バリアフリー化を進め、身近で利用しやすいスポーツ施設となるよう、施設の充実に努めます。

○広域的なスポーツ施設の整備について

- ・ プロスポーツや広域的な規模の試合・大会に対応できるよう、広域的なスポーツ施設について南信州広域連合と連携して検討していきます。

3 学校体育施設の活用

現状と課題

- ◆当市の学校体育施設については、小学校が 19 校中 18 校、中学校が 9 校中 8 校において校庭 26 施設、体育館 26 施設、武道場 4 施設の計 56 施設を、地域の社会体育のために開放しており、コミュニティスポーツが活発に行われています。

施策の展開

○学校体育施設の有効活用

- ・ 各地区で地元の学校体育施設の活用や自主的な管理について話し合う場をつくり、一層の有効活用が図られるように開放促進に努めます。

第4章 施策の推進体制

1 施策推進体制と役割

(1) 行政・団体

○ 飯田市・飯田市教育委員会

計画の基本理念「スポーツを通じて人と地域が輝く社会（まち）飯田」を実現するため、地域資源を活かしたスポーツ施策を展開するとともに、市民、地域、学校、（公財）飯田市体育協会をはじめとする、関係スポーツ団体、スポーツ推進委員協議会などと協働して各施策を進めていきます。

○ （公財）飯田市体育協会

子どもから大人まですべての市民がスポーツを「する」だけではなく、「見る」、「支える」ことを含めたスポーツの楽しみ・感動を分かち合い、支え合う元気なまちづくりをめざして活動をしています。また、スポーツ大会やスポーツ教室の開催を通じて、競技力の向上を目指すとともに、指導者人材バンクによる質の高いスポーツ指導者の紹介活動により、地域のスポーツ環境の充実を図ります。

○ 飯田市スポーツ推進委員協議会

ウォーキングやニュースポーツなど、健康づくりや地域コミュニティづくりを目的とした手軽に取り組めるスポーツを、市全域、また各地区単位で推進します。また、市と各地区住民のパイプ役となって地区住民の声を市のスポーツ施策に反映させます。

○ 学校（小・中・高）

生涯スポーツの土台となる運動能力や体力を育むための運動機会の充実を図ります。また、地域や保護者の協力を得て、スポーツに楽しく意欲的に取り組み、習慣化していけるように、魅力的な運動や遊びを学校生活に取り入れていきます。

○ 保育所等

歩いて子どもたちの豊かな心、生きる力を育てる「歩育」や、運動学習能力を高めるプログラムを実践し、子どもの体力・運動能力の向上を図ります。また、幼児期に外遊びの楽しさを伝えることで、運動好きの子どもを増やします。

○ 公民館・育成会等

スポーツに参加する、スポーツ行事を企画・運営するなど、身近な地域活動において、スポーツを通じた住民交流や一体感を創出していきます。また、地域の文化活動とスポーツ活動の融合など、各地区の特色を活かした活動が期待されています。

○ 地域の少年少女スポーツクラブ

各地域に組織されている野球や武道などの少年少女スポーツクラブは、地域に深く根ざした定期的なスポーツ活動を行っています。クラブの活動として地域行事に取り組む地区もあり、地域の大人と子どもで作り上げる有効なスポーツ・地域活動の場となっています。

○ 飯田市スポーツ少年団

青少年の健全な育成を目的として、スポーツ活動のほか、交流活動、学習活動、社会活動などを行っています。青少年の自主性・協調性・責任感・連帯感を育成するとともに、スポーツ活動の楽しさを味わい習慣化することで、生涯スポーツの入口としての役割を担っています。

○ 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブの特長を活かした、多世代、多種目、多様な運動レベルのスポーツ愛好者の交流・コミュニティの創造や、学校部活動に無い種目の受け皿として期待されています。

○ 長野県障がい者スポーツ指導者協議会

障がい児・者と一緒にスポーツを楽しむための技術指導やサポートを行っています。また、障がい児・者スポーツ選手・団体と一緒に試合や交流を行うための窓口としての役割を担っています。

(2) 市民・関係機関

○ 市民

健康づくりのための身体活動の一つとしての継続的なスポーツ活動や、地域住民の交流を目的としたスポーツ行事などへの積極的な取り組みが期待されています。また、市民に元気と勇気を与えてくれる全国的・国際的に活躍するアスリートの増加が期待されています。

○ 医療機関

専門分野での競技者の支援や、健康・体力づくり及びスポーツ障害に関する専門知識を市民に広く知ってもらうための機会づくりへの協力・支援が期待されます。

○ 企業・社会奉仕団体等

職場におけるスポーツ活動の奨励・支援と、地域における多様なスポーツ活動への人材や財源などの支援が期待されます。

○ 民間スポーツクラブ

スイミングクラブやフィットネスクラブなど、民間スポーツクラブの利用が進んでいます。今後も、関係スポーツ団体との情報交換を促進し、それぞれの機能を分担しながら連携していくことが望まれます。

2 計画の検証・評価

飯田市スポーツ推進計画は、必要に応じ達成目標、主要施策及び事務事業を点検・評価し、改善・見直しを行います。

<資料編>

1 飯田市で管理する体育施設一覧

種別	施設名	建設年月	規模		備考
			競技面積㎡	フロア・競技種目	
体育館	飯田市鼎体育館	S53.10	3,336	バレー 3面 バドミントン 6面 バスケットボール 2面 柔道(3F) 1面・卓球(3F)	H23耐震改修
	飯田市切石体育館	H3.3	615.06	バレー 1面 バドミントン 2面 バスケットボール 1面	
	飯田市上郷体育館	S52.3	2,226	バレー 2面 バドミントン 6面 バスケットボール 2面 卓球(2F)	H23耐震改修
	飯田市山田体育館	S59.4	1,198	バレー 2面 バドミントン 3面 バスケットボール 1面 ソフトテニス 1面	
	飯田市南信濃B&G 海洋センター	S62.5	1,181	バレーボール 2面 バドミントン 4面 バスケットボール 1面 柔道(2F) 卓球(2F) 剣道	
	飯田勤労者体育 センター第1体育館	S52.3	1,008	バレー 2面 バドミントン 6面 バスケットボール 2面 ソフトテニス 1面	
	飯田勤労者体育 センター第2体育館	S60.2	514	バレー 1面 バドミントン 2面	
	長野県勤労者福祉 センター体育館	H8.12	752	バレー 2面 バスケットボール 1面 バドミントン 3面 卓球	
野球場	飯田市今宮野球場	S27.4	18,477	野球 1面 ソフトボール 2面 スタンド3500 両翼90m センター120m	
	県営飯田野球場 (綿半飯田野球場)	H1.4	23,398	野球 1面 メインスタンド 3,084人 芝生スタンド 両翼95m センター120m	

種別	施設名	建設年月	規模		備考
			競技面積㎡	フロア・競技種目	
運動場	飯田市座光寺河川敷運動場	H6.9	9,828 106	サッカー 1面 多目的広場 0.5面	
	飯田市総合運動場第1グラウンド	S52.4	20,127	陸上(第2種公認)400m 8レーン サッカー 1面 ラグビー 1面	
	飯田市総合運動場第2グラウンド	S52.4	5,100	サッカー 1面 ラグビー 1面	
	飯田市下久堅運動場	H3.4	18,777	野球 2面 ソフトボール 2面 サッカー 1面	
	飯田市上久堅運動場(上久堅農村広場)	S62.4	9,000	野球 2面 ソフトボール 2面 サッカー 1面	
	飯田市千代運動場(千代山村広場)	S62.4	10,000	野球 2面 ソフトボール 2面	
	飯田市桐林運動場	H1.4	13,235	野球 2面 ソフトボール 2面	
	飯田市桐林屋根付多目的グラウンド(ドームサンヒルズ)	H15.3	1,152	テニス(クレイ) 2面 ゲートボール 2面 (緑色スクリーニングス)	
	飯田市川路多目的広場	H23.11	23,421.3 18,061.2	サッカー 大人 1面 サッカー 子人 4面 多目的広場	
	飯田市山本運動場	S60.4	12,284	野球 2面 ソフトボール 2面	
	飯田市矢高運動場	S56.11	7,800	野球 2面 ソフトボール 2面 サッカー 1面	
	飯田市上郷運動場	S51.3	6,876	ソフトボール 1面	
	飯田市山田運動場	S57.10	9,869	野球 2面 ソフトボール 2面	
	飯田市南信濃運動場	S62.10	10,000	野球 1面 ソフトボール 2面	
	県営多目的グラウンド	H2.5	16,121	野球 2面 ソフトボール 4面 サッカー 1面	
県民飯田運動広場運動場(押洞運動場)	S47.3	15,322	野球 2面 ソフトボール 4面		
テニスコート	飯田市高羽町テニスコート	S56.4	1,640	テニス(クレイ) 2面	
	飯田市矢高テニスコート	S54.4	3,700	テニス(クレイ) 4面	
	飯田市桐林テニスコート	H2.4	1,600	テニス(クレイ) 2面 (緑色スクリーニングス)	

種別	施設名	建設年月	規模		備考
			競技面積㎡	フロア・競技種目	
テニスコート	飯田市山田テニスコート	S57.10	2,730	テニス(ハード) 3面	
	飯田市天龍峡テニスコート	H24.4	3,750	テニス(砂入人工芝) 6面	
	飯田市南信濃テニスコート	S62.12	924	テニス(ハード) 1面	
	県民飯田運動広場テニスコート(押洞テニスコート)	S47.5	6,874	テニス(クレー) 10面	
武道場	飯田市武道館	S57.4	2,184	柔道(1F) 3面 剣道(2F) 3面	
	飯田市営弓道場	S55.3	1,562	6人立	
	飯田市鼎弓道場	S57.12	110	6人立 アーチェリー(3人立) 30m	
	飯田市上郷柔剣道場	S60.3	403	柔道 2面	
	飯田市竜丘柔道場	S62.3	299	柔道 1面	
	県営飯田弓道場	H4.4	1,908	近的 10人立 遠的 6人立 アーチェリー 50m	
	飯田市和田弓道場	S58.		4人立	
	飯田市木沢弓道場	S62.3		4人立	
プール	飯田市営市民プール	S35.6	350	25m遊泳、水深0.8m~1.0m 25m徒歩用 水深0.35m~0.55m	
	飯田運動公園プール(アクアパークIIDA)	H7.7	15,000	50m公認 8コース、25m変形、流水213m、スライダー2基、ファミリー、りんごプール他	
	飯田市南信濃B&G海洋センター(プール)	S62.5	385	25mプール 6コース小プール 10m×6m	
その他	飯田市風越山麓研修センター	S59.4	516	研修施設 宿泊60名	
	飯田市八重河内屋内ゲートボール場	S60.	830	ゲートボール 2面	

2 飯田市スポーツ推進審議会

飯田市スポーツ推進計画の策定にあたっては、飯田市スポーツ推進審議会において様々な立場の委員から意見をいただきました。この審議会では、子どもたちの体力の低下や働き盛り世代における運動不足によるストレスの増大や心身の健康問題など、飯田市スポーツ推進計画に盛り込む項目について協議を行いました。

(1) 飯田市スポーツ推進審議会における検討経過

年度・回数	開催日	策定経過
平成25年度 第2回	25年9月30日	飯田市教育委員会から飯田市スポーツ推進審議会へ飯田市スポーツ推進計画の策定についての諮問書を提出
平成25年度 第3回	26年3月17日	事務局で集めた資料を分析した結果を示し、現状・課題と施策の展開について検討・協議
平成26年度 第1回	26年7月16日	飯田市スポーツ推進計画骨子(案)について協議
平成26年度 第2回	26年10月30日	26年度第1回審議会で出されたご意見等により修正をした飯田市スポーツ推進計画骨子(案)について協議
平成26年度 第3回	27年3月16日	飯田市スポーツ推進計画(素案)について協議
平成26年度 第4回	27年3月30日	飯田市スポーツ推進審議会から飯田市教育委員会へ飯田市スポーツ推進計画の策定についての第一次答申書を提出
平成27年度 第1回	27年10月9日	飯田市公共施設マネジメント基本方針、第5次飯田市基本構想後期基本計画の振り返りを踏まえて、飯田市スポーツ推進計画(案)について協議
平成27年度 第2回	28年3月15日	平成27年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果を踏まえて、飯田市スポーツ推進計画(案)について協議
平成28年度 第1回	28年11月22日	第2次教育振興基本計画(案)の内容を踏まえて、飯田市スポーツ推進計画(案)について協議
平成28年度 第2回	29年1月23日	飯田市スポーツ推進審議会から飯田市教育委員会へ飯田市スポーツ推進計画の策定についての最終答申書を提出

(2) 飯田市スポーツ推進審議会での主な意見

飯田市スポーツ推進審議会では、次のような意見が出されました。

区分	現状と課題	施策の展開
スポーツによる健康・体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校の部活種目が減っていく場合でも自由に種目を選択できるようにするための受け皿が必要 ○子どもの身体能力、体のバランスをどのように学校教育で高めていくか ○地域でもっとスポーツ推進委員が活躍してウォーキングを推進していくべき 	<ul style="list-style-type: none"> ○外遊びの重要性を伝える ○運動学習能力を高めるプログラムの指導者を各競技団体の中に育成する ○子どもの体力向上については、学校教育が担う役割は非常に大きいので、施策項目に学校を加える ○公民館を中心に高齢者スポーツを推進していく

	<p>○小学校時代のスポーツのやりすぎで燃え尽きてしまい、中学でスポーツを辞めてしまうケースもある</p> <p>○公民館が子どものスポーツにもっと関わりを持っていくべき</p>	<p>○学校での「遊び」を含めたスポーツ活動については、授業よりも休み時間や放課後の方がのびのび活動している。スポーツ推進計画では、学校生活全体を含めた表現にした方がよい</p> <p>○部活動は学校だけではなく、社会体育と協力して良くしていく</p>
競技力向上の推進	<p>○長野県は指導レベルが低いため、選手がどんどん県外へ出て行ってしまう</p> <p>○本市出身者の活躍が増えており、スポーツをする人たちの励みになる</p>	<p>○一流の選手の試合を間近で観戦できるような機会の拡大（スポーツへの関心と競技力の向上に繋がる）</p>
スポーツを支える人材の発掘・育成	<p>○地域の少年少女スポーツクラブ指導者の指導力不足</p> <p>○学校は体協と連携を取り、責任を持って社会体育指導者の人選をしていたきたい</p> <p>○指導技術も進んできており、競技種目によっては資格を取らないと指導できない制度になってくる</p>	<p>○研修機会を増やすべき地域スポーツ指導者に、スポーツ推進委員や公民館体育委員以外の指導者も記述した方がいい</p>
スポーツ施設の整備・充実	<p>○県大会が来れるようなスポーツ施設が無い（正規のコートが取れない。空調施設が無い、シャワー室が無いなど）</p> <p>○地元の学校施設の活用について話し合う場をつくり、地域のことについてもっと考える機会を増やしてほしい</p>	<p>○受益者負担の適正化を図る</p> <p>○大きな体育館や駐車場をつくって、大きな大会を開催したい</p>

(3) 飯田市スポーツ推進審議会委員名簿
(平成28年度)

氏名	所属団体等	備考
オオクラ ヌタカ 大蔵 豊	(公財)飯田市体育協会 (専務理事)	スポーツ団体 飯田市体育協会
ヨシカワ トシカズ 吉川 敏一	飯田市スポーツ少年団 (本部長)	スポーツ団体 スポーツ少年団
クボタ トモコ 久保田 知子	飯田ソフトテニス協会	スポーツ団体 女性
スガヌマ マサヒロ 菅沼 昌博	飯田市教頭会 (小学校)	学校体育関係者 小学校
カサイ テツヤ 河西 哲也	飯田市教頭会 (中学校)	学校体育関係者 中学校
タナカ トシハル 田中 利治	飯田市スポーツ推進委員協議会	知識経験者
モリモト サカエ 森本 サカエ	飯田市連合婦人会	知識経験者
トミタ ヤスヒロ 富田 泰啓	長野県ウォーキング協会	知識経験者
キタムラ カツシ 北村 勝志	飯田市公民館長会	知識経験者
ナカタ カズオ 中田 一雄	長野県障がい者スポーツ指導者協議会	スポーツ団体 障がい者

(平成25年度～平成27年度) ※平成28年度と重複する委員を除く

氏名	所属団体等	備考
ワカハヤシ ユタカ 若林 裕	(公財)飯田市体育協会 (専務理事)	スポーツ団体 飯田市体育協会
キタハラ ヨシミ 北原 良美	飯田市スポーツ少年団 (本部長)	スポーツ団体 スポーツ少年団
ハラダ タダハル 原田 忠治	竜丘歩こう会	スポーツ団体 高齢者
オザワ ヒロアキ 小澤 弘明	飯田市教頭会 (小学校)	学校体育関係者 小学校
ムラサキ イクヨシ 村澤 生悦	飯田市教頭会 (中学校)	学校体育関係者 中学校
シオザワ トキコ 塩澤 登喜子	飯田市連合婦人会	知識経験者
ソガ ヨシノブ 曾我 佳伸	飯田市教頭会 (小学校)	学校体育関係者 小学校
ミヤシタ トシオ 宮下 寿男	飯田市教頭会 (中学校)	学校体育関係者 中学校
モリモト ミホコ 森本 美保子	飯田市連合婦人会	知識経験者

(4) 飯田市スポーツ推進審議会条例

昭和48年6月26日条例第44号

(設置)

第1条 市民体育振興の施策に努め、市民生活の向上を図るため、スポーツ基本法(平成23年法律第78号)第31条の規定により、飯田市スポーツ推進審議会(以下「審議会」という。)を設置する。

(組織)

第2条 審議会は、委員12人以内をもって組織する。

(委員)

第3条 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 教育委員会の委員
- (2) スポーツ団体関係者
- (3) 学校体育関係者
- (4) 知識経験者

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(会長および副会長)

第5条 審議会に会長1人、副会長1人を置き委員が互選する。

2 会長は、会務を総理する。

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会の会議は、会長が招集し会長が議長となる。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(幹事)

第7条 審議会に幹事若干人を置き、教育委員会事務局職員のうちから教育委員会が任命する。

2 幹事は会長の命を受けて審議会の事務に従事する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(上村及び南信濃村の編入に伴う経過措置)

2 上村及び南信濃村の編入の日から平成 19 年 3 月 31 日までの間に委嘱される委員の任期は、第 4 条の規定にかかわらず、同日までとする。

附 則(平成 14 年 12 月 24 日条例第 41 号抄)

(施行期日)

1 この条例中第 11 条の規定は公布の日から、その他の規定は平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 17 年 9 月 30 日条例第 57 号)

この条例は、平成 17 年 10 月 1 日から施行する。

附 則(平成 23 年 10 月 7 日条例第 21 号)

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際、現にこの条例による改正前のスポーツ振興審議会条例の規定により設置されているスポーツ振興審議会及びその委員は、この条例による改正後の飯田市スポーツ推進審議会条例の規定により設置された飯田市スポーツ推進審議会及びその委員とみなす。

(飯田市特別職の職員で非常勤の者の報酬に関する条例の一部改正)

3 飯田市特別職の職員で非常勤の者の報酬に関する条例(昭和 37 年飯田市条例第 10 号)の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

「飯田市スポーツ推進計画（素案）」に対してお寄せいただいた
ご意見と市の考え方

平成 29 年 3 月 23 日
飯田市議会全員協議会
資料No.10-3

- 1 ご意見を募集した期間
平成 28 年 12 月 6 日から平成 29 年 1 月 16 日まで
- 2 ご意見をお寄せいただいた方の人数
1 人の個人 1 つの団体
- 3 ご意見の数
7 項目

お寄せいただいた意見	市の考え方
計画の基本方針について	
<p>【計画の基本理念】 2 頁</p> <p>現在、飯田市の体育施設運営方法ではとても「スポーツを通じて人と地域が輝く社会（まち飯田）」とは呼べないと思います。</p> <p>具体例として、現在のテニスコートの運営方法では、土日曜日・祝日にテニスコートが空いていたとしても、平日に使用申込みと使用料の支払いが完了していないとテニスコートを使う事は出来ません。（年間使用券等が無い場合）</p> <p>飯田市は 1 週間ほど前から計画しないと運動できないものなのではないでしょうか？早く改善していただきたいものです。</p>	<p>【追記をせず原案のまま】（今後検討）</p> <p>いただきましたご意見につきましては、飯田市スポーツ推進計画（素案）の記載内容に直接のご意見というより運営に関するご意見と捉えております。</p> <p>現在 44 の社会体育施設を生涯学習・スポーツ課で一括して集中管理を行っていますが、現体制では土曜・休日・祝日等を運用することはできない状況であります。</p> <p>早急な対応は難しいですが、今後の各施設の状況を踏まえ検討課題とさせていただきたいとおもいます。</p> <p>なお、推進計画の記載内容では「スポーツ施設の整備・充実項目で「より効果的・効率的で利用しやすい管理運営を進めていきたい」と記載しておりますので、総体的な運用管理面の趣旨でご理解のほどよろしく申し上げます。</p>
<p>【計画の基本理念】 2 頁</p> <p>「スポーツを通じて人と地域が輝く社会（まち飯田）」の実現に向けて、スポーツに関わることで食えることがすごく大事だと思う。</p>	<p>【追記をせず原案のまま】</p> <p>ご指摘のとおり、体力・運動能力の向上を図る上で、食生活を含めた基本的な生活習慣の定着が大事であると思います。</p> <p>推進計画の記載内容では、8 頁の基本的な生活習慣の定着の項目で「公民館・保健課と連携して、食生活や規則正しい生活リズムなど、基本的な生活習慣の定着を図ることで、運動意欲の向上に繋がります。」と記載しておりますので、追記をせず原案のままとします。</p>

基本項目1 スポーツによる健康・体力の向上について	
<p>【子どもの体力・運動能力の向上】 7頁</p> <p>子どもの体力が落ちている原因の1つとして、通学等を親が車で送迎してしまっている傾向がある。せっかく、外遊びの重要性を謳っているが、それが実際の活動に現れていない。スポーツ活動を増強しているのに体力が低下しているのはそのあたりに原因があることを踏まえていただいた方が良いと感じている。</p>	<p>【計画に追記】</p> <p>ご指摘のとおり、子どもの体力・運動能力の向上に向けて、幼児期から日常的に歩くことが重要であると思います。</p> <p>推進計画の記載内容では、7頁の外遊びの重要性の項目で、「保育所等や保健課との連携により、外遊びや日常的に歩くことが運動能力・体力向上へ良い影響があることの紹介など、幼児期から運動に親しむための保護者への啓発活動を行っていきます。」と追記します。</p>
基本目標4 スポーツを通じたコミュニティづくりについて	
<p>【コミュニティスポーツの推進】 20頁</p> <p>私は理科実験ミュージアムの運営に携わっているが、今年初めて参加者が前年を下回った。美術博物館、かざこし子どもの森公園、図書館も子どもの入場者が減っている。子どもを対象にした公民館事業も同様の状況である。</p> <p>スポーツは大事なことと思うが、スポーツ活動と文化活動にメリハリを付けるなど、共存できるシステムができれば良いと感じる。運動している子供は運動ばかりで他の事業に参加しなくなってしまう。「スポーツを通じたコミュニティづくり」の取り組みとして入れていただけたらうれしい。</p>	<p>【計画に追記】</p> <p>ご指摘のとおり、地域コミュニティ活性化のためには、スポーツ活動と文化活動の連携が必要であると思います。</p> <p>推進計画の記載内容では、20頁の地域コミュニティ活性化のためのスポーツ活用の項目で「スポーツ推進委員と公民館が核となって、地域住民の交流と一体感・活力の醸成のため、コミュニティスポーツの推進やサークル育成等の支援、文化活動との連携を図ります。」と追記します。</p>
基本目標5 障がい者と一緒に楽しめるスポーツの推進について	
<p>【障がい者スポーツ・レクリエーション活動の充実】 22頁</p> <p>市と障がい者が入所している民間施設が連携してスポーツを中心とするイベントを考えていただくと、計画で目指す4年後の姿（「障がい者がスポーツイベント等により多く参加し、一緒に楽しむ土壌が整っています。」）に近づく具体的な活動になっていくと思うので検討いただきたい。</p>	<p>【追記をせず原案のまま】</p> <p>ご指摘のとおり、障がい者スポーツ・レクリエーション活動の充実を図る上で、民間施設との連携は不可欠であると思います。</p> <p>推進計画の記載内容では、22頁の障がい者スポーツ・レクリエーション活動の充実の項目で「障がい者のスポーツ参加機会の充実を図るため、市の主催行事やスポーツ関連の情報を積極的に提供するなど、関係部局などとの情報交換を密接に行います。」と記載しておりますので、追記をせず原案のままとします。</p>

基本目標 6 スポーツ施設の整備・充実について

【スポーツ施設の整備・充実】 23頁
サッカーをしている方から、サッカーをきちんとできるグラウンドが欲しいが、要望しても実現しないと聞いた。計画の内容を見ると、スポーツ施設の統合か改修(長寿命化)ということだが、スポーツの内容が変わってくれば必要な施設も変わってくると思う。必要なものは長く使っていくし、新しいスポーツができればそれなりに改修するなど、公共施設マネジメントで検討してほしい。

【追記をせず原案のまま】(今後検討)
具体的なスポーツ施設の整備内容については、今後公共施設マネジメント基本方針に則って検討していくので、追記をせず原案のままとします。(公財)飯田市体育協会や競技団体等と協議を重ねる中で、引き続き検討を進めて参ります。

【スポーツ施設の整備・充実】 23頁
息子が市内のクラブチームでサッカーをしていた。チームのメンバーが20人くらいいたと思うが、そのうちの10人くらいは県外等の高校に引っ張られてしまっている現状がある。課題は中学生や高校生が自由に使える芝生のグラウンドがないということだった。トップアスリートを育てるというアクションプログラムがあるのであれば、スポーツ施設の整備・充実というところも検討してほしい。

【追記をせず原案のまま】(今後検討)
具体的なスポーツ施設の整備内容については、今後公共施設マネジメント基本方針に則って検討していくので、追記をせず原案のままとします。(公財)飯田市体育協会や競技団体等と協議を重ねる中で、引き続き検討を進めて参ります。